明治三十六年一月二十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百五拾八號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衞生雜誌

第百五十八號 目次

謹みて新年を賀し
併せて會員各位の健康を祈る

明治三十六年一月

私立大日本婦人衛生會事務所

●二月例會報告

來二月七日(第一土曜日)午后正一時より麴町虎之門内東京女學館講堂に於て本會の例會を開き(晴雨共)左の講演あり萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

家庭看護法　醫學博士　三宅秀君

演題未定　ミス　スマート

會　旨（明治三十二年十一月本會總裁殿下より賜はりたる令旨）

本會茲に會員の方々と相見ることを得たるは周子の深く喜ぶ所なり顧ふに衛生の事たる人世最も大切なるものにして婦人の一家を治め子弟を養育する上に於て皆よく斯の道を辨へ置かでかなはざることなり

本會は役員并に會員方の熱心なる協力により次第に隆盛に赴けるは誠に滿足する所なり只茲に一言諸氏に望むところは凡て婦人は衣服に意を用ゐること多きが爲め集會などの席にありては自然衣服競爭の弊に陷ることなしとせず斯くては本會の旨趣にも違ふべければ會員は爾後ます〳〵質素と清潔とを旨とし流行に走るの風を避け成るべく一回も多く出席して有益なる講義を聽き以て自他を益し本會の目的を遂せられんこと希望に堪へざる處なり



私立大日本婦人衛生會總裁小松若宮妃周子殿下

講演

初めて就學したる兒童

醫學博士　三島通良

佃事務所員速記

私が今日皆樣にお話を致しませうと思ふことは、初めて學校には入つた小供の事に就てお話をして置きたいと思ふのであります。それにつき未だ貴君方の中で御承知のない方もございませうと思ひますから、少し初めて學校には入る事に就て申上げて置かうと思ひます、

我國では男女に拘はらず小供が滿六歳になつた其翌月から就學義務と云ふものが生じます、是は誰でも一度小學校には入らなければならぬ、さうして四年の間の稽古をしなければならぬ、斯う云ふことになつて居るです。それで小學校の授業は毎年四月の一日から始まることになつて居ります、滿六年一ヶ月以上になつた者が四月の一日からは入るのです。從來は四月でなくも、五月になつても六月になつても隨分は入ることが出來たのでありますが、一昨年小學校令の改正以來四月一日より外に途中からは入ると云ふことは出來ぬことになりました。それですから滿六年になつても、それが四月前であると云ふと四月が來る迄待つて居てさうしては入ると云ふのであります。此學校に行くことも、私抔が小學校に行く時分には、小供が學校に行きたがる者と行きたがらぬ者とありましたから、小供を學校に遣るのに家で餘程骨が折れて、色々騙したり賺したりして遣らなければならぬ、或は人が附いて行かなければならぬと云ふやうな鹽梅でありましたけれども、此頃では小供が皆學校に行きたがると云ふ風で、少し年が足らぬでも學校に行かうと云ふやうな風がある、又親達も少しでも早く學校に入れたならば早く

濟むだらうと云ふやうな考で、早く入れたがると云ふ風がございます。所で此小學校に初めては入つた小供に教へる色々な讀書きのやうなことや、或は算術のやうなことにしても、總て滿六年以上になつた即ち其年に相當するだけに育つた小供を當にして教授時間も學問の程度も皆極めてあるのでありますから、餘り早く學校に入れますると、其小供は學科の負擔に堪えないで、其爲めに身體が弱ると云ふやうなことがあるのです、尤も是は委しく言ひますると小供々々に依て違ふのでありまして、小供によつては滿六歲に達する前に這入つても左程身體に障らない、或る小供は滿六歲を過ぎては入つても未だ障ると云ふのがあります、併し平均した所で滿六歲になつてから學校に入れると云ふことにしてあるのですから、其年の來る迄待たなければならぬ。

そこで滿六歲と云ふと取り年七つでありますが、七つになつた小供は是非學校に行かなければならぬと云ひました所で、七つになつても身體が本統に出來て居ない小供であつたならば學校に遣る譯には行かぬ、是は唯だ素人が見て、例へば少し馬鹿(瘋癲白痴)であるとか、或はマア體裁善く云へば智恵が遲い、奥智恵だとか、さう云ふ風な者ばかりでなく、身體の出來の弱いの(虛弱)もありますし、未だ育ちの足りないの(發育不全)もある、此は丁度外に在ります木や草の類でも、育ちの好いのもあれば惡るいのもある、田畑の生物でも能く實るのもあるし實らぬのもある、それと同じことで人間にも成長の佳のもあり、惡いのもある。それて育ちの惡るい小供を無理に學校に遣りまするとどうも宜しくない、そこて前にお話したやうに、日本の國民は滿六歲に達した翌月から必ず學校に行かんならぬとはなつて居りますけれども、其中に取除けがある。其取除けは今行はれて居る小學校令と云ふ規則の中の第三十三條に、就學の義務を免除する者と猶豫する者と斯う二つあります、免除すると云ふは、學校に入らにやならぬ者であるけれども、それを入らぬても宜いと云

うて全く許して仕舞ふ、それから猶豫すると云ふ方はマア入れるのを一年間待つと云ふのです、それで此は重に身體の方の側から極めてありますので、免除すると云ふ方は、迚も是は學校に入れても駄目てあると云ふやうな方て、學校に入れても迚も稽古が出來ない者、或は不具な者は免除する、其他今の育ちの惡るいの、傴僂、チンチクリンと云ふやうな何うしても學校に行けない、さう云ふのは免除する。それから猶豫と云ふ方は、もう些つと置いとけば育つ、さうすれば學校に遣つても宜しい、或は親が貧乏である、到底學校に遣つた所が、縱し授業料は免除された所で學校て使ふ本とか色々な物を買つて遣る譯には行かない、それも何處かて補助してやれば宜いが其補助も出來ないと云ふやうなのは猶豫してやる。

此の如く今日は極められてあるのですけれども、それなら身體の方は何處迄育つて居れば學校に入れて宜いかと云ふ程度が極まつて居らない。親の身になつて見れば其小供を早く學校に遣りたいのは山々てある、這へば立て立てば歩めは親心てある、早く學校に遣りたいけれども何處迄育てば學校に行けるのてあるか其標準がないと困る、其標準を極めるにはどうして極めるかと云ふに先づ身體の方から極めて來なければならぬ、例へば身體の丈がどの位あつて目方がどの位ある、胸の廻りがどの位ある、或は頭の廻りがどの位ある、日本の小供て滿六歳になれば此位の大きさに育つて居るのが並てあると云ふことが極まつて居らぬと、其小供を學校に入れて宜いか惡るいかと云ふことが能う極まらぬ。是は今の所規則て定まつて居るのではありませぬけれども、日本の澤山の小供の身體を測つてさうして其平均を出して行きますとそれが分る、其事に就て私が丁度明治二十三年からして十三年間掛つて、日本の小供一万七千人程測つてさうして極めたものがあります、それに依て見ますると云ふと、滿六歳位の小供の體重は、男の方が十六、五キロ、女の子の方が

十六、二キロ――一キロと云ふのは二百六十六匁六分六厘六毛六糸六忽と云ふのであるから、之を當り前に勘定して行くと大變面倒ですが、極く簡單に算出する法がありますのです、一瓩と云ふものに三分の八を掛けさへすれば出て來る、即ち八と云ふ數を三で割ると、二、六六六と云ふ循環小數が出て來る、それだから八を掛けて三で割れば宜い、さうすると男の目方が即ち四貫四百目と云ふものになる、女の目方も同じ遣り方で出て來る、極く簡單に出來る、それだけの目方のあるのが通例である、それから身長の方はと云ひまするど、男の方が一〇二、四糎、女の方が一〇二、四糎、身の丈はどちらも同じことです、此糎と云ふのは丁度日本の三分三厘に當る、一メートルが三尺三寸、其百分の一が糎でありますから三分三厘になる、それだから三分三厘を一〇二、四糎に掛けさへすれば宜い、それを掛けると丁度三尺三寸七分九厘二毛と云ふものになる、端數を切上げてアヽ三尺四寸、身の丈が三尺四寸ある者が普通に發育した者である、其外胸の廻りが幾ら、頭の廻りが幾らと云ふやうなこともチヤント測つてありますから、それに合せて見て目方も丈もそれより下の小供であれば、それは未だ發育が不充分である、發育が不充分であるからそれはマア學校に入れることは暫く猶豫した方が宜い、斯う云ふやうな譯にならなければならぬのです。詰り親たる者が小供を學校に遣る時分には、それだけの事を能く知つてさうして遣らなければならぬ、其外に身體に病氣があるとか、或は不具の所があるとか云ふやうな者は是は尚更ら注意をしなければならぬ。

そこでさう云ふ風に學校に入れる前から親が能く氣を付けて、自分の小供が學校に行つて規則に定めてある所の時間だけ課業を受けられるやうに成長して居るか居らぬかと云ふことを知つて後、學校に遣ると云ふことが先づ大切であります。其外に尚ほ學校に遣る時分に、親たる者は自分の小供を遣る學校に行つて見ると云ふことが必要である、どうも是迄の

例て見ますると云ふと、何處の家でも、小供を學校に遣つても、唯だ何處の學校に入れると云ふだけて、親たる者即ちお父さんにしろ、お母さんにしろ自分て學校に行つて見て、成程此學校は空氣の流通も宜しい、光線の射入も充分である、建物の構造も堅牢である、机、腰掛も生徒の身體に適當して居る、先生も十分敎育のことを心得て居て、誠に親切に敎えて呉れると云ふやうなことを見屆けて、さうして學校に小供を入れると云ふやうな注意が缺けて居る、殆どそれをやつて居らぬと云ふやうな風てある。それは甚だ宜しくないことてある、自分の大事な小供を學校に遣つてさうして敎育して貰ふ、敎育して貰ふと云ふのは只物を覺えさせると云ふ許りてない、身體も能く育てゝ貰はなければならぬ、達者てさうして能く人の知らなければならぬ所の知識、又務めなければならぬ所の道と云ふものを敎えて貰ふのでありますから、どう云ふ處でどう云ふ人が敎へて呉れるのであるか、能くそれを見屆けてから學校に遣らなければならぬ、所が是迄はさう云ふ事を一向注意せぬ。唯だ自分の小供を學校に遣つて置きさへすれば、好い鹽梅に敎育して呉れるものだと云ふ風に思つて居る、是は大變不注意なことである。少くともお父さんが忙がしくて行けなければ、母たる者は自分の小供の爲めに是非其學校に行つて見なければならぬ。最初入れる時にそれだけの注意をして入れ、入れた後は屢々其學校を見舞つて、自分の小供はどう云ふ風にして學校て敎授されて居るか、又先生が始終どう云ふ風に敎育して居るか、斯う云ふ事を親たる者は氣を付けなければ可かぬ、是迄は全くそれが缺けて居る。小供を學校に入れるに就て、母親の注意すべき事柄は未だ色々外にございますけれども、それは今日の重な目的てありませぬから、只一ト通り注意する事をお話して置きます、

そこで其學校には入つた小供がどんな風な有樣であるか、て是は私の方て外に少し目的があつて、今年の四月私は奈良縣と和歌山縣とに出張をし、そ

れから私の方の學校衛生課に居る助手を遣つて、此方の高等師範學校、女子高等師範學校の附屬小學校に居る今年初めては入つた小供の身體を檢査しました。それは丁度今年の四月這入つた小供を四月檢査したのでありますから、詰り是迄は家に居つて學校へも行つたことのない、即ち腕白の仕放題、太々の揑ね次第に育つた小供ですから、詰りお譬て言へば畠から堀立てのまだ泥の着いて居る儘である、泥の着いた所で能く一つ見て置て、さうして今度はそれを洗つたり、尻ッぽを切つたり、皮を剝いたり、胡麻醬を附けたりして燒き上げた所も見なければならぬ。其堀立ての所を見ると云ふ考へて小供を診た、私の診たのが丁度奈良縣と和歌山縣とて八十名程てあります、それから私の助手が此方て診たのが丁度九十七名程診て居る、それは種々な點に就て調をしたのです、それですからして一人の小供を診るのに大變手間が掛つて、漸く一日かかつて二十人位しか診ることが出來ない、其診たのに付て色々な結果が出て來ましたが、それを一々御話を致しますと云ふと大變に長くなりますし、又御入用の無いこともありませうと思ひますから、其中て人の母親となつて居る人に注意をして置きたいと思ふ事だけをお話しませう。

私のお話は、人の母親たる人に聞かせたいと考へて居る事柄でありますから、御列席の女生徒方のやうに未だ學校に來て居る御方には少し用の無いやうに聞えるかも知れませぬけれども、貴女方でもそれこれして居る内にお母さんになられるのです、私が今お話する事を小耳に挾んて御記きになると、曾て女學館の講堂て三島先生が斯う云ふやうな事を言はれたと云ふことを思出すやうになる。そこて其學校には入りたての小供を診ますると、マア第一に東京の學校に居る小供と、田舍の學校に居る小供とて色々違つたことがある、身體もどつちかと云ふと、都會の方の小供は――小供許りてはありませぬ大人もさうてすが、脊丈の方に餘計身體が伸びて、幅の方

に伸方が少い、之に反して田舍の方の小供は、丈の方に伸びるのは少くて幅の方に餘計伸びる、それてすからして貴女方の家に居るおさんどんを御覧になると、脊較べなら横から來い、或は灰俵を轉がしたやうなものである、目方も都會の者に較べると多いし、又胸幅も廣い。之に反して都會の方の者、又人の身分から申しますると身分の上の人ほど細長い、それだからして丈の方から行くと田舍の者の方が低い、之に反して目方、胸の圍りとか云ふものになつて來ると、田舍の者の方が目方は多いし圍りは廣いそれで身體としては何方が好い身體であるか、都會の者は成程脊いがスラリとして居る、女抔で言へば脊いのスラリとした者は柳腰とか云つて恰好が良いけれども、持ちの方から行くと、柳に雪折れなしと行けば宜いが、どうもさう云ふ身體は結核抔に罹るのが多い、頸の細い、丈の細長い普通云ふと容姿の良いスラリとして居るのを肺病の方で好むやうてす。それから見ると肺病と云ふものは、世の謂ゆる美女が好きだと見える、サーさうなると貴女方のやうに美人ばかり揃つて居る處は肺病が窺きに來ますから、御注意なさい。さう云ふ風に身體の出來から違つて居る、其外にも違つて居る處が澤山ある、例へば皮膚である、田舍の小供と東京の小供と較べて見ると、東京の小供の方が兎に角奇麗だ、湯にも能く入れるし着物も垢染みた着物を着せない、之に反して田舍の小供は湯に入れることも少なければ、又入れた所が能く洗はない、それから襦袢抔の洗濯が行屆かぬものでありますから、皮膚の極く奇麗なのは東京の方に多い、其代りに皮膚の丈夫、弱いと云ふ方から云ひますると、田舍の者の方が皮膚の丈夫な者が多い、東京の者の方は皮膚が弱い、是は此會て前にも私がお話した事がありますけれども、人間の肌と云ふものは肌理細かで色の白いのが宜いに違ひない、けれども幾ら肌理細かで色が白くても、鳥渡疵すれば直ぐに疵咎めをする、腫物が出來る、或は風を引き易いと云ふやうなものであつては何にも

ならぬ、見掛け計り宜くても持ちが惡るい、丁度着物や何かの切地で言へば、形が良いとか柄が良いとか言つても地が誠に弱い、洗濯、洗張が利かないのと同じです、人間の身體も皮膚の綺麗な許りが能ではない、第一に丈夫でなければいけない、皮膚は人間の衣服と同じことで、體温を調節し身躰の中に在る所の機械を始終保護して居るのです、それが些つとも効能がなくて寒くなれば直ぐ風を引くと云ふことでは詰まらぬものである。多摩川の水に晒せし雪の肌抔と言つて威張つて見た所が、どん〱風抔を引いては何にもならぬ。之に反して田舍の小供の方は皮膚が大變に丈夫である、田舍の小供は無暗に膚を包んだり何かせずに剝出しにして置く、之に反して東京の小供は親が無闇に着物抔を着せたり何かする、それでどうしても弱くなり易いそれから筋肉の情况に就て見ても、下肢の筋肉は割に良く發達して居るけれども、上肢の筋肉の發育は甚だ惡るい、貴女方でも多くはさうでありませう、御自分のを御覽になつても能く分る、股の肉は堅いが腕のは柔かい。學校には入り立ての小供でもさうです、それは何の爲であるかと云ふと、詰り小供が駈歩いて足の運動は盛にするけれども、手の運動は割合に少い、手の運動と云ふと通例座つて惡戲でもする位なものである。それが爲めに脚の發育は大變に良いけれども腕の方の發育が惡るい。それは貴女方も多分さうです、噓だと思はれるならば貴女方の身躰を診てチヤント之を御目に懸けてもよい。此が殊に女の方がさうなのです、女の小供も脚の運動はするけれども、學校で體操でもさせて呉れなければ腕の運動が少い脚は太いけれども腕は細い、それだから今日お湯には入る時に御覽なさい、上膊と下膊と較べれば上膊の方が餘程太くあるべき筈であるのが、却て反對に下膊の方が太い、大抵の女の子供は下膊が太くて上膊が細い。西洋の繪抔を見ると女の腕は上膊の方から下膊の方へ段々に細くなつて來て居るでせう、所が日本の女のは之と反對のが多い。私共が此度診

た男の子でも女の子でも皆さうあつたのです、此の如きは釣合の惡るい身體と言はなければならぬ、釣合の惡るい身體はどうしても持ちが惡るい、此卓子のやうな物でも何でも總て釣合の惡るい物は持ちが惡るいに極まつて居る、

それから榮養のこと、或は骨の事もありますがそれ等は省きまして胸の事をお話しませう。胸も都會の小供と田舍の小供と較べて、都會の小供は狹い、田舍の小供は廣い、胸の太いのと細いのとどつちが宜いかと云ふと、是れも太いのが宜い、御自分の胸が太いから太いのが宜いなどと三島先生は御贔負なさる抔と言はれては困ります、胸が太ければ自然と心臟も良い、肺臟も良い、充分な働きが出來るから太い方が良い、胸の小さい弱い者は駈つこをしても直ぐにハーハーと云うて居る、強い者は何んでもないオルガンのフイゴでも小さいのはどうですか、足を一生懸命に動かさなければ音が惡るい、大きい奴ならば靜に足を動かしても善い音がする、それと同じことであります。胸の小さいのは呼吸の數を澤山しなければならぬ。殊に女の子は兎角前の方に屈む癖がある、是點に於ては町の小供でも田舍の小供でも同じことです、ですから相當の年頃の女と男と較べて見ると、女の子の方の胸は平になつて居るか或は眞ン中が窄むやうになつて居るのが多い。平生成るたけ後へそつて肩を擴げるやうにして、胸が前の方に突き出るやうにしなければ可けない。貴女方が家に歸つて弟さんなり妹さんなり五つ六つになる小供を御覽なさい、其位の小供は胸とお腹を突出して眞ツ直になつて居る、それが學校には入つて一年經ち二年經つ間に段々屈んで來る。小供も生れて一向無邪氣の時分には良い身體をして居るのであるけれども、學校に來て何か少し生物知りになつて來ると屈んで仕舞ふ、それで胸の圍りが小さくなる。それから胸の平いの(偏平胸)が澤山ある、胸は成るべく廣く圓い方が宜い、幅が廣くても平いのは宜くない、幅が狹くても圓い方が宜いのであります、

今日は體育の方法で胸の形も直して仕舞ふことが出來るのでありますから、胸の平いのや狹い小供があつても、それを直して遣ることも出來るのであります、

それから私が此檢査に就て驚いたのは割合に脊骨の曲つた者(脊柱の屈彎)が多いのである、是は又何れ好い機會がありましたならば、脊骨の曲る事に就て委しくお話する積りでありますから、今日はホンのざつとお話して置きます。初めの考では此脊骨の曲るのは多分は學校に來た爲めに、學校の机、腰掛が惡るいとか、學校で行儀を惡るくして居たとか云ふことから、脊骨の曲る者が餘計出來るのだらうと考へて居つた、然るに今度檢査をして見ると云ふと學校に來立ての小供にも脊骨の曲つた者がある、それが割合に大變に多いのです。脊骨の曲つた者が何れも半分過ぎある、即ち丁度八十人で言へば四十人以上脊骨の曲つたのがある。で今ざつとお話して置くと、脊骨と云ふものは丁度珠數、大きな珠數を幷べたやうなもので、其眞ん中に紐が通つて居るのと同じやうな譯で、前にも後にも右にも左にも曲れるやうになつて居る、若し是が一本の棒であつたならば人間の身體と云ふものは餘程不自由なものである。脇を見るのにも身體全體を向けなければならぬ、是れが前後左右何れの方向にも曲るので振向いて見ることも自由に出來る。さう云ふ風に平生の便利に出來て居るだけそれだけ曲り易いと云ふことを考へなければならぬ。他の關節もさうです、下肢の關節と上肢の關節と較べて見ると、下肢の方の關節は動く範圍が大變に少い、其代り緊つたり喰つ付いて居るから拔ける抔と云ふ憂ひは決してない、之に反して上肢の方は非常に運動が自由に出來るやうになつて居る、其代り關節が脫れ易い。總て物でもさうです、大變に便利な物は壞れ易い、丈夫な物はさう便利には行かない、其代り堅い。今の脊骨も其通りである、大變に平生運動に便利に出來て居る代りには曲り易い、さうして殊にそれが年を取つた者と年の

行かない者とては、年の行かない内の方が曲り易い、即ち骨から云ひますると、骨の軟かい内と硬くなつてからとでは、まだ軟かい内の方が曲り易い、體質の強壯のものと虚弱のものでは、虚弱の方が曲り易い、女と男と較べて見ると女の方が曲り易い。斯う云ふ譯で即ち筋骨の軟かい者ほど曲り易い、そこで學校に行つて學校の机腰掛が生徒の身體に適して居るやうに出來て居らぬとどうなるかと云ふと、チヤンと身體を眞ッ直にして腰を掛けて居ることが出來ない、足がブラ／＼するか或は投げ出して足を外に出さなければならぬ。机の高さが適當せねば是非身體を横にしなければならぬ。貴女方はそんな事をしないかも知れぬけれども、餘所の小供は物を書くとき兎角手を机の上に出し俯いて物を匿したがる、さうすると脊骨が曲る。殊に裁縫をする時分には大抵前の方に踞むものであるから、脊骨が曲る者が多い。それが今度學校には入り立ての小供を檢査して見ると其小供に矢張り脊柱の曲彎が澤山あるです。それが一つ不思議でならない。京都府の高等女學校に於ては此事に就て非常に注意して居ります、體格檢査の時に校長が側に附いて居つて、一人々々に向つて貴女の脊骨はかう曲つて居りますよ、氣を付けなければいけませぬよと喧しく言うて居る、其學校でさへ先年私が行つて檢査して見たとき、百人の内五十八人は脊骨が曲つて居つたのです。此學校位注意して居る學校は他には餘り見受けません云々

是より三島先生には東京市内に於ける某學校生徒の脊柱彎曲の試驗成績と實驗談とによりて人々の知らず／＼彎曲症に陷り安きことを細説せられ尚延いて其原因より左の如く續述せられたり

どうも學校に通ふ時分に女の生徒は荷物が多い、獨逸抔では高等女學校の生徒に向つて荷物の重さを制限して居る所もあります、と云ふものは女の方は平生要るべき本ばかりではない、裁縫の道具抔もある、それ許りならば宜いけれども、玩具もは入つて居る、お手玉もは入つて居れば鞠もは入つて居る、それを

始終抱へて居る、さうして小學校から高等女學校を卒業するには十年も學校に通ふのですから、それだけでも氣を付けぬと身體が曲るのは當り前の話である。それで荷物抔は出來るだけ少くするがよい。其外女の方は傘抔を翳なくても宜い時でも傘を持つて居るのでせう、一つは飾か知らぬけれども、外を通るに人に見られて恥かしいから顏を匿す爲めに持つて居るのがある、重荷に小ザク荷物が筋力に比して餘程多い、それが始終害を爲して居る。

さて學校には入り立ての小供にどうして脊柱の屈彎が澤山あるか、是は必ず家に居る内に曲つたに相違ない、サアそれはどうして曲つたか、大略を云へば斯う云ふ事なんです。一つには小さい赤ン坊の中から小供を抱く時分に、或はお母さん或は乳母、誰ても抱き癖と云ふものがある、右の勝手の人と左の勝手の人とありますから、右なり左なり許りに始終抱いて居ると、その爲にも赤ン坊の脊骨が曲つて仕舞ふ。一躰赤ン坊と云ふものは餘り抱くのは良くない、成るたけ下に置くのが宜い、人手の多い處の小供と人手の少い處の小供と較べて見ると能く分る、人手の多い處の小供はどうしても束縛が酷いから發育が惡るい、人手の少い處の小供は構はぬて置く爲めに手足の運動が自由に利く、さうして早く歩くやうになる、身躰の弱い丈夫と云ふこと許りでなく、さう云ふ事が大變に小供の成長に關係する。さう云ふ事から一つは脊骨が曲る、それから二つには行儀、日本では大概坐つて居る、そこで女の子は足でも拋げ出せば母親が氣を付けておチヤンとお坐りと云ふけれども、男の子の方は構はない、中等以上の家であれば男女に拘はらず行儀を喧しく言ひますけれども中等以下になると、小供が坐るやうになつた時分に左に横になつたり或は右に横になつたりしてもカマワヌ、そこで其不行儀の癖が身躰に付いて仕舞ふ。それでまだ軟かい脊骨であるからして、右なり左なりに曲つて仕舞つた者が澤山にあるのだらうと思ひます。之等も母親たる者が能く平生から氣を付けて

居らぬといけない、脊骨が曲つた爲めに色々な害を受けるのであります、其事は今日の問題でありませぬからして、孰れ又機會があつた時に委しくお話することに致しませう。

それから其次に私が診たので氣を付けたいと思ふのは耳であります、私の診た八十人程の小供、即ち女の子が四十人、男の子が四十人の中で、一人を除くほか耳垢の無い者はなかつた、皆蜂の巣のやうに耳垢が溜つて居ました。是は決して田舍ばかりではない、東京の小供でもさうです。少し大きくなつた生徒には少いが、幼稚園それから小學校の下級の方の小供になると、耳垢の溜つて居らぬ子は割合に少い大概溜つて居る。そこで耳垢抔は溜つて居ても宜いぢやありませぬか大きに御世話だと言はれるか知らぬが、中々大きに御世話どころではない、是が段々溜つて行くと耳の中に加答兒を起し、太甚しきに至ると膿が出る(耳漏)さうして外に流出す、或は其膿が段々と中に入つて鼓膜を破ることもある。平生は耳垢の溜つて居る爲めに物の聲えが宜くない(重聽)それであるから耳垢の爲に小供が大變に害を受ける、耳が惡るくなると鼻、咽喉が惡るくなる、太甚しきに至ると腦に害を及ぼす、斯う云ふ譯になるのであります。それでさう云ふ風に小供に耳垢が溜つて居ると云ふことは何であるかと云ふと、小さい内から小供の耳垢を能く取つて遣らない、尤も小供が大勢にでもなつて來ると、自然手が屆かぬからして仕方がないと言へば仕方ありませぬけれども、上の方の子が女の子でもあれば、お母さんに代つて小さい弟妹抔の耳垢を取つて遣るが宜しい、それで親が少しく注意して耳垢を取らせる癖を付けると小供は悦んで取らせる、それを平生構はぬで置て偶々取つて遣らうとすると非常に痛いから小供は厭がる親の方でも面倒だからツイ抛つて置く、さうすると終ひには耳垢が段々大き、なつて今のやうに害を受けるやうになる。現に私が八十人の生徒を診た中で、只の一人耳の内が少し奇麗なのがあつた切りて後と

は悉く耳垢が溜つて居つた。それで同じ耳垢でも俗にズル耳と云ふのと堅耳と云ふのがある、ズル耳は割合に少い方で私の診た八十人の中でホントのズル耳の者は四人程しかありませぬでした、後とは皆堅まつて居つたのでした。そこで今のやうに耳糞が固つて大きくなつて來た時分にはどうしたら宜しいか、それを急に取らうとすると耳を痛める、又耳掻は金屬製ではいけない、角か或は木のが宜しいです、金でありまするが時とすると耳の中を損ふことがある。一躰女の簪と云ふものは耳を掻く爲めに出來て居るのであるけれども、近頃は一の裝飾品になつて仕舞つた、隨分私抔が簪拜借抔と言つて耳の中を遣つて見るけれども些ッとも役に立たぬがある、此んなのは尤も金脚の珊瑚珠の簪などに多い、形許りを目的にして拵へてあるから、到底耳を掻く用には立たない。そんなのは無論可けないが成るべくならば角か木で拵へた物が宜い、其耳掻でも餘程能く見なければ可けない、若し削げが出來て居るとか或は破れがあると耳を痛めますから、舌の尖で嘗めて見て少しも其憂ひの無いのを認めて用ひねばならぬ。それで耳垢の固くなつたのはどうして取るかと云ふと、小供を横に臥さしてオレーフーの中に百分の一の石炭酸を容れたものを一滴二滴耳の中に垂らし込んで、さうして翌日の其頃になつてから耳掻で取つて遣る、さうすると固まつた耳垢が油の爲めに柔かになつて解けて來る、さうでなければ少し溫めた五十倍位の硼酸水或は食塩水、さうでなければ只の微溫湯でも宜しい、それを奇麗なスポイトで洗つてやる、決して耳の中にスポイトの口を眞ッ直ぐに入れては可かない、横の方に入れてさうして洗つてやると、中でグル〳〵と水が廻つて中に在る物を洗出す、さう云ふやうにして耳を能掃除をして置て遣りませぬと、今言ふたやうに耳の爲めに大變色々な害を受ける。

それから次に齒であります、私が八十人の小供を診た所が齲齒のない小供は一人も無い、尤も此位の年

齢の時分には齒の脱け更るものです、前に在つた乳齒が落ちて其下から食齒が出て來るのでありますから、此位の小供の齒の惡るいと云ふのは先づ當り前と言つても宜い。けれども一體に學校の小供を撿査して見ると殆ど齲齒の無い小供はないのです。是は何てあるかと云ふと、矢張り赤ン坊の時分から口の中を能く洗はない、生れ立ての時分から毎日柔かい切にお湯を付けて洗つて遣ると、それが癖になつて仕舞ふから、終には小供の方から口を開いて持て來るやうになる。けれども初め之を捨て置くと厭やになつて仕舞ふ、洗つて遣らうとしても厭やがつて逃出すやうになる、仕方がないから打捨らかして置くさうすると御菓子を食べても其外色々な物を食べても、洗はぬで其儘になつて居るから、段々齒が腐つて壞齒や齲齒が出來る、齲齒が一つ出來ると其お隣にも直ぐに移る。勿論人に依て大變齒の性の良い者と惡るい者とございます、それですけれども極く幼さい時分から口の中を淸潔にするとしないとでは齒に大變關係する。それだから極く幼さい生れ立ての時分から母親が氣を付けて洗つて遣れば、齒の惡くなるのを大變に防ぐことが出來て、大きくなつても齒の惡るい者が少くなるだらうと思ひます。それを捨て、其儘にして置きますると、段々齒が惡るくなつて仕舞つて、到頭終ひには齒無しと言ふやうな者になつて仕舞ふ、

私は此處に脊柱彎曲の圖を持つて來ましたが、是に就ての精密のお話は後日に讓つて、今日は唯だ御目に懸けて置くだけに止めます。(此時講演者は繪圖に就て二三解說せられたるも略す)それから之を骨にして見ると斯う(繪圖を示す)なる、是は實物を繪に取つたのです、此眞ン中に赤い筋が引いてありますが、眞ン中から筋を引いて見ると、脊骨が左の方にスツカリ曲つて居る爲めに腰の骨迄が違つて居る、是は私の方の領分でありませぬから委しく申しませぬけれども、腰の骨の曲つて居ると云ふことは餘程胎兒の位置、分娩等に關係して來る。それか

ら此ノのは一つの骨を取出して筋を引いたのてありますが即ち骨の形まて崩れて曲つて來ますから、自然身躰が全く曲つて來る。胸杯も片側が膨れて片側が凹んて來る。之を脊の方から見ると丁度此反對になる。それてすから此の爲に容姿も大變に惡るくなる。斯う云ふ風に身體が曲つて居ると壽命にも大變關係を及ぼして來る。人間長壽を保たうと思へば、斯う云ふ風に身躰を畸形にして置くのは極めて不得策てあります。まだ色々お話をして置く事がありますが、大變に長くなりまして御退屈だらうと考へますから、是れだけにして置きます、（完）

●箴　言

爰に人ありて、寶玉をつぶてとし、雀をうたば、愚なりとて人必わらはん。至りておもき物をすてゝ、至りてかろき物を得んとすればなり。人の身は、至りておもし。然るに至りてかろき小なる欲をむさぼりて、身をそこなふは、輕重をしらずといふべし。寶玉を以て雀をうつがごとし（養生門）

婦人の運動（大日本婦人衛生會宇都宮支會大會に於て）

醫學博士　栗本東明

エー私は今日本會へ出席致し、皆樣に御目に懸りまして、何か詰らむ事を申上げる事になりましたのは詢に私の光榮とする所で御座います。

ソコデ私のお話を申上げまするのは『婦人の運動』と云ふ題を設けまして。ソシテ話をする積りであります。私の申す婦人の運動と云ふものは身躰の運動を申すのデムいまして。近頃は種々の事に運動と云ふ事を用いまするが私のは衛生に關する運動即ち婦人の運動と云ふ事に就てお話をするのデムいます。即ち此の日本國に於きましては近來、日本と英吉利と同盟したと云ふやうな事デありまして大部此の日本人といふものは是迄殆むと半開國、野蠻國に近いと云ふやうに西洋人から考へられて居つたのデあります、所が此の日英の同盟からして始めて世界の人間と肩を並べる事になつたのてありますから、東洋の

人種、即ち黄金人種、日本人と云ふものは西洋の人間と交際するやうになつたのであるから、是迄の日本人の考を以つて居つてはイカない、世界の人を相手に附き合ふやうに仕なければならむと云ふ事は一番必要な事であらうと思はれる。兎に角世間並みの事を仕なければならむと云ふ結構な事になつて來たのであります。所の如き位置になつて來たならば復た吾々の責任と云ふものも從つて重くなつて來ると云ふことは當然の話でムいまして中々日本人同士の考を持つて居る場合ではありません、日本人同志の考を持つて居つてはイカンのでムいますからして餘程日本人の考は是迄とは違つた方に向けて行かなければなりませんのである。英吉利と同盟した以上は親類も同し事デ、向ふの國に對して日本人の品位を高めて行かなければイカンのである、例へて見ますれば玆に吾々の朋友があるとしまして向ふからして立派な、丁重な有様デ以つて此方を見舞つて來る、例へば衣服も正しい、禮儀も正しいといふやうにして來ましたならば、又此方から返禮に出懸けて行くにしても餘り殺風景な風俗をして行く事は出來ないと云ふのが普通今日の有様であります。ソシテ見ますれば英吉利は文明國中でも優れた文明國てありますから是れと附き合ふには日本人もゴク身裝を善く仕なければなりません獨り身裝り計りでなく總ての人品、風采、腦力即ち頭の智識も亦進めて行くと云ふ事は極めて必要デあります、是れは是非免かれン?ソーシテ行かなければならむ事であります、ソーいふ風デありますから日本人の力むべき事は智識即ち學問を磨くと云ふ事が必要である、英吉利人は尤も文明の進歩した國でありますから皆な學問を研究し、學問は非常に進歩して居る、衛生も亦進歩して居る、是れと同じ事吾々日本人も亦學問も衛生も總てに於て敗けないやうにしなければならないのである。

夫から向ふの英吉利人は早く開らけて居るから金も持つて居る、日本人のやうに貧乏でない、コー云ふ

譯であるから日本人は一方に於ては節儉も仕なければならない、節儉を仕て金力も持たなければならない、乃ち働らいて財産も拵らへソシテ兎に角英吉利と同等の位置に成らなければならないのデありますが此の同等の位置に立たうと云ふには中々尋常一樣ては出來ない、是には何が一番力むべき事てあるかと申すと即ち健康？人間の健康てあります、人間は體軀が弱はくては何にも出來ンぬのでありますから、兎に角日本人は健康と云ふものに注意をし、ソシテ躰格を良くして充分に働らくと云ふやうに仕なければならないのてある、尤も今日は衞生と申す點に就きましては世間デも余程八釜しくなつて來ましたやうてあるが、人間の健康と云ふものは一朝一夕に出來るものてはありませんからして、兎に角小兒の中から躰格‥‥躰質を良くし良い躰格になるやうに仕なければならないので、ソシテ段々に衞生といふ點に心を注いで養育して行きますれば體軀の發育も良くなり從つて立派な仕事も出來テ行くと云ふやうになりますから、小供を養育するには小さい時分からして衞生法を守つて行くが尤も必要であらうと考へられる、併しながらモット其の前小供の生れる前のこと‥小供の躰格と云ふものは多くは父母に似て生れますから何うしても身躰が弱はくては健全な小供が出來ない、母が弱い時には丈夫な小供が其の躰内から生れないのて厶いますから先つ日本人の躰格を改良するには第一に母たる人が自分の衞生をヨク守つて體軀を丈夫にすると云ふ方針デなければならない、恰度痩せた土地に人參や大根を蒔けば矢張り、ソコからは痩せた大根、人參か出來ると同じ事デ、母の躰格が良ければ必ず其の小供も亦丈夫な小供が生れると云ふ事からして本會の婦人衞生會支會と云ふものがツマリ有志の方々が御熱心の極、出來たものと考へられる。

夫れて婦人の衞生法と云ふものに就ては中々簡單にお話した計りてはヨク分りませんが今日は只婦人の運動と云ふ事のお話をする積りてあります。而し之

も專はらお話をする考へもありませんて厶いましたから別に深い考案も厶いません　夫れデ人間の體軀と云ふものは使ひやうに依つて甚麼にもなる　怠ければイクラても怠惰けられる又た働らけばイクラても働らかれると云ふやうな譯で、吾々の體軀は働らけば働らく程發育する、働らかなければ筋肉が發達しないから矢張り從前の位置に止まつて居るものデ働らけば筋骨が硬くなる、硬くなれば、所謂健康の身体には健康の精神が宿ると云ふ譯でありますから此の運動と云ふものは衞生上最も必要なる事であるのてある。然るに日本の御婦人方に就いて見ますると運動と云ふものは充分になさらたやうであります、私の考ふる所では日本の婦人の運動は洵に不完全のやうに思はれる、而し是は一般にソーであるとキメル事は出來ません、農業を營むで居る所の婦人は中々働いて居る即ち田畑に出てゝ自然の空氣を呼吸しながら働らいて居るから體軀は非常に健康てある、併しながら夫は專はら農業等を遣る人で其の外の人即ち上等社會の人、中等社會の人位になると中々ソー云ふ新鮮の空氣を呼吸する、新鮮の空氣の中に運働して居ると云ふ事が出來ない？出來ないのてはない日本の婦人は、良い所の婦人は遣らないのである、ゴク上等の婦人杯となると自分ては何にも仕ないデ着物、夜具等迄總て下女に出させると云ふやうな人が多いのてありまして、堅いものは箸を持つ位が一番、其の外は火鉢の側に終日座つて居ると云ふコー云ふ人もないとは限らンのである、斯う云ふ風ては衞生法に叶つたものてはありません、從つて是等は小供の衞生に非常の關係を及ぼすものて、例へば東京の華族い小供は皆ンな弱い、躰格が皆な不完全てある、是からは何うかも知りませンが今迄の華族の小供は皆な弱いのてあります、ト云ふものはお母さんの體軀が不完全な爲めデ、只だ體軀計りデない智識までも發達しない、即ち馬鹿、腦病、發狂抔と云ふやうなものが華族の家に出來ると云ふものはツマル所お母さンの躰格が惡いからなのデわ

ります、獨りお母さン計りてはない衞生と云ふ點に就てはゴク不完全であるからソー云ふ風になるのデムいます、而し此節は華族學校抔と云ふ種々の學校が出來ましたから是からは良くなりませう、けれども今迄の成蹟は盡く惡るかつた、之れは上流の華族ばかりでなくモ少し下つて金持の奧さンとかお母さンになりますと充分に運動を仕ないデ朝から晩まて遊むで居るものが多いやうでありますが、コイツは何うも今迄の附けたりデ其の妻君獨りを惡いとは云はれン、何故となれば日本の風俗は婦人は成丈外へ出ないと云ふやうになつて居るのデ殊に支那朝鮮になりますと鳥渡でも外へ抔は出ない、が日本は夫程迄ではないけれども兎に角日本婦人も外へ出ないと云ふのが習慣デあるから之が抑もの原因で躰格が不完全になつたかも知れません、又一ッは日本には是迄運動の方法がないのでありますから是等も一ッの原因でありませう、今は學校には種々の運動方法がありますから學校へお出なさる女子は別として、一家を持つて居る御婦人に對つて運動しろと云つて見た所が分らない、塵埃の飛ぶ大道眞中を歩く事も出來ない、ト云つて別に運動の方法がない、ないではない知らないから運動する事が出來ない、併し運動の方法と云ふものは拵らへやうに依つて甚麼にも出來るのデムいます、今迄ないにしても種々の方面に向つてイクラでも出來る？殊に婦人衞生會が出來た以上は充分面白い運動法が出來るだらうと考へられるのデある、であるからして運動と云ふものは今迄い習慣にないから是から遣ればイクラでも出來るだらうと思はれるのである、併し運動をするにも面白味がなければ出來ないものデ、學校の躰操を遣るにもアレが面白いから出來るのでアイツに面白味と云ふがなければ先生から遣れと云はれた所が中々出來るものデない、半ば兒童の休む時間に遣るから面白い、面白いから遣ると云ふやうな譯デ、面白味がなければ運動は駄目で運動には此の面白味と云ふが尤も必要なのである。

西洋になりますと、隨分面白い運動がある、西洋の婦人の運動は朝、晩半分を運動に費やしますが其の運動は面白いから知らず〳〵の間に體軀が健全になつて來る、之れも上等か中等の人に依つて出來ますものでゴク上等になりますと自分の家にお抱えの馬車があるから夫れに乘つて三時か四時頃になると公園に出懸ける公園と云つても西洋の公園はゴク廣いから一里も馬車で乘り廻はすと、乘つて居つても運動が出來る、又た景色の好い所になると馬車を降りて散步する夫から宜い加減に遊むで馬車で歸つて晩飯となる、之はキマりきつて居る仕事で英吉利の倫敦抔に參ゐると立派な馬車に乘り馬車の御者も亦立派な着物を着て、妻君は小供や下女抔を連れて皆な公園の中を恰度お祭りでゝあるかの心持で步いて居るが之れは皆上等社會の夫人達である兎に角倫敦ては百臺二百臺の馬車が毎晩遊びに出懸ける、夫れからして中等の人の運動は如何かといふと是は只だ三時か四時頃になると散步がてらに家の下女や娘抔を連れて市中へ散步ながら買物に出懸ける、歐羅巴の市街？巴里とか倫敦とかになりますと市街と云つても奇麗でありますから、公園にでも行つたやうな心持で散步が出來る、往來の兩側には樹が植えてあつて誠に心持が宜いから買物ながら二時間位の運動をして歸へると云ふやうな事にして遣つて居るから始終運動が出來ますけれども、日本では何うも夫れが出來ないと云ふのは殘念な次第であります。

夫れからまた歐羅巴に於ては春夏秋冬、春、夏、秋、冬共運動の方法があるのである、例へば春になると櫻山に遊びに行く、櫻山と云つても日本の櫻のやうに立派でなく、赤味がなくツて色が白い、樹も日本のやうに大きくない、大底二間位の高さしかない先つ春になるとソー云ふ所へ遊びに出懸ける、夏になると避暑旁々旅行をするが自分の所に居つても夏は夏相應に遊ぶべき方法があるのである、即ち河海のある所では婦人にも漕げるやうな舟があつて大底婦人は夫れに乘つて河又は湖中を運動する、避暑する

人は避暑に行くと云ふ夫れ相應の運動がある、夫れから秋は紅葉觀に行く併し向ふは寒いから日本のやうに宜い紅葉は出來ないけれども婦人達は運動ながら自轉車杯に乘り又は種々雜多の方法に依り面白半分の運動をする其の機會は充分に備つて居る、また冬の運動はと云ふと多くは舞踏會が始まる、之れには舞踏學校と云ふがあるからコヽデ稽古をして親類とか友人とかの所でする、殆むど毎晩のやうに遣つて樂しむで居る夫れから復た　水滑りと云ふやうなものを遣る、例へば池のやうな所を凍らしてソシテ靴の所にコー云ふものを箝めて（演者手を以て形容す）滑らせる。婦人が手と手を組み合せて滑らせるが之にはなか／＼面白い運動でムいます兎に角コーいふ樂しみと云ふものは知らず／＼の裡に人間を運動させるものであつて寒いのも知らず日が暮れるのも夜が明けるのも知らずに舞踏杯を遣ると云ふやうな有樣で自然の理に運動をする仕組になつて居る然にコー云ふ運動方法と云ふものは私の見る所では東京にも澤山無いやうである、先づ第一に婦人が舟を漕ぐなむと云ふ事は無い、然らば野外運動があるかと云ふと之れも無い學校の生徒になりますと種々の運動方法が設けられてありますけれども一家を持つた人には運動の方法としては別に設けて無いツマリ家を出る事が出來ないから自然運動も出來ないやうになつて居るのデある夫れからまた避暑杯に行く人もありますが日本のは遠方に行く事を遣らむやうであります充分贅托の人になりますと日光、箱根或は熱海とか云ふ所へ行きますけれども先づ多くは遣らないと云ふのが普通である所が向ふの人は夏になると大底避暑に出懸ける避暑に行かなければ肩身が狹いやうに思つて居るので上中等社會の人は勿論下宿屋の妻君までも何でも避暑に行かなければならむやうに思つて居るがアチヲの氣候は夏であつても今日位の時候で是よりも少し暑い位であるから日本人から見ればコンナ氣候に避暑に行く必要はないけれども向ふの人は矢張り此の位の氣候でも暑く感ずる

からして何れも避暑に行く八月頃になると暑い〱と云つて避暑に出懸けるのであるが是は一般の風習に成つて居る平素は儉約して貯いてソシテ皆な避暑に行くやうになつて居るのである、然し向ふの人は單に暑さを避けるの目的計りでない多くは學問上の探儉を兼ねて行くのである歐羅巴には彼の瑞西と云ふ所がありますゴク山國でありますがソコへ行くと恰度我が富士山のやうに四方の景色が餘程好い所でありますソー云ふ所へ出懸けますけれども單に避暑ばかりでなく皆な學問上の探儉をする人が多いのでムいます、此の國にロングファル杯と云ふ名山がありますソコへ婦人が多く出懸けて行く氣候の事から植物の研究抔をする目的を以て行くが男も叶はむ冒險をする婦人が中々多くあります從つて避暑旅行は避暑の目的、身体を健康にする利益ばかりでなく學問上の利益を得る事が頗る多いのでムいます。

復た西洋の婦人は婦人同志の交際計りでない外國人との交際を好むで、頻りに外國人と附き合をしますから其の交際場裏に於ける話の柄を拵らへると云ふの考を以て避暑旁々種々の研究をするのであります、夏中英吉利とか亞米利加とか又は瑞西とかを廻はつて其の風土、氣候、植物等を見て夫れを頭に修め冬になつて舞踏會、宴會などがあると瑞西の山に登つてコー云ふ研究をしたとか又は斯う云ふ面白い事があつたとか云ふて夫れを交際の種にするソー云ふ風でありますから知らず〱面白味を以て充分の運動も出來？衛生上に叶つた事が出來るのである、然るに日本に於ては何うも交際場裏に出て話をする必要がないから富士山や箱根などへ行つて植物等の研究をする必要がないから遣らないと云ふやうになるかも知りませんが是からは些と方針を變えて運動をすると云ふやうにして戴きたいと考へる、併しながら其の方法に就きましては中々六ケ敷い鳥渡考が附かない……宇都宮婦人衛生會に望む所は甚麽云ふ方法にして宜いかと云ふ事を何うも頭に浮ばない世間の人の遣らない事は可笑しいから先づ私

の希望する所は婦人衛生會に於きまして遠足會、或は野外運動會と云ふやうなものをお始めになりましたならば余程運動に向つて好果を奏するだらうと考へるのである。宇都宮市ならば明神山？明神山は餘り近過ぎるから八幡山邊に野外運動會を催しても宜しい、モ些つと奮發すれば日光まで汽車に乘つて一ト廻はり日光の町も廻はつて歸へるも宜敷い夫れからまた此の近くの郊外に好い場所があるとかいふ淺田院長の話てありますから其の郊外に行つて鬼ゴッコでも何でもする。之れを一ケ月に一遍位宛する、一ケ月に一遍か多ければ一年に四回位辨當が持つて歩いて行つて運動をする、モット遠方なれば溫泉場抔へ行くも宜しい兎に角たび〳〵婦人の會合をなしソシテ面白く運動をするやうにならむ事を希望する所である、斯の如くたび〳〵會合して運動會を催せば自然運動の効能が現はれて身躰は壯健になる、身躰が壯健になれば從つて小供サンも丈夫になる、丈夫な小供サンが生れる、此の小供サンの身躰が良ければ必ず立派な日本人が出來て來る、ソー云ふ立派な日本人が澤山出來て來、時に始めて世界の交際が宜く出來また立派な人物が現はれて來るだらうと思はれる、夫からして日本の國利を擧つて來ると云ふやうな譯て兎に角婦人の衛生運動と云ふものは遣るに從つて丈夫な日本人が出來る即ち日本人種の改良をする位になつたならば始めて本會の目的を達する事が出來るだらうと思はれるのである、學校の生徒さンに於きましては運動は遣りますけれども學校を出て仕舞ひば運動抔は少しも遣らない、其の時に出來る小供は必ず弱いと云ふ事は當然の理で厶いますから生徒諸君も此の考を以て充分運動と云ふ事にお努めあらむ事を希望致します、今日は只だ運動に就て簡單に話をしたのみでありますが願くは私の話の御實行下さるなれば誠に仕合な次第であります、甚だ失禮いたしました……

（終り）

第二席（大日本婦人衛生會宇都宮支會大會に於て）

醫學博士　岡村龍彦

私は五分計り簡單に申上げる事デ參ゐりました：：簡單に申さうと云ふのは少し夫人？令孃の前では不穩當な事でありますが、併し吾々醫學者の集合し且つ従事して治療しなければならん事でありますから成べく不穩當の點を避けて鳥渡お話仕樣と思ます、

吾々の健康ケ維持する、ツマリ永續するには平素から自分の生活の點に注意して病氣に懸らむやう身躰を健康に仕なければならむと云ふ事は當然の話である、一躰吾々の病氣に懸るのは何う云ふ原因、作用て懸るだらう乎と云へば御承知の通り躰質の關係もあるし又土地、風土氣候抔の關係からして病氣に懸るといふ原因もありませう、又職業上から病氣に懸ると云ふやうな事もあり、色々の機會に遭遇して始めて病氣と云ふものが起るのであるから一々其の點に就て病氣の起る豫防、防がうと云ふ事は餘程六ケ敷い、殆むど出來ない相談になるだらうと思はれる、併し不慮の災難。即ち腕車から落ッコチたとか或は汽車の衝突とか云ふやうな不慮の災難は別として普通吾々の病氣の原因は。居る家、生活して居る周圍の空氣の中にも澤山汚ない梅菌が居る、隱棲して居る、此の梅菌が病氣を起す原因を爲すから是等の點に注意を爲さらなければならない。衛生的に標準を立てゝ行くが必要である、誰も好むで病氣に懸る人間はありませんけれども或る場合に依つて病氣に懸るやうな事がありますが其の疾病に鳥渡不都合な疾病があります、世ノ中に幾許もある病氣であるが其の疾病は何所にあるかと申しまするど或一種の病氣で傳染する機會がおつて傳染するので其の傳染に注意すれば傳染せんのでありまず、併しながら此の病氣は世界中到る所に廣かつて居る、日本にも澤山ある忌むべき穢らはしき病氣でありますが世の中に此の位多い病氣はない――梅毒、痳病なんと云ふ

病氣は殆むど世界に廣がつて居ると云ふ有樣で總て人の躰中に　年頃に成長した人の身躰には大抵廣がつて居る、歐羅巴の或村の如きは全村梅毒患者を以て充たされあると云つても宜しい位に廣がつて居るので世界中梅毒の廣がつて居らむ國は無いやうな次第で、其の結果は何う云ふ事になるかと云ふと非常に社會に害毒を流すのであつて……（低聲の爲め語尾聽取れず）．外の病氣のペストとか赤痢とか云ふ病氣は防いで仕舞ひまするけれども此の自然の間に人に傳播する病氣と云ふものは中々防ぎ切れないので　（聽取れず）……コー云ふ病氣は誰も好まぬ病氣でありますから充分に治療す事を仕ない、治療すには發表しなければならむから自然隱くして置くと云ふやうな譯で夫れが段々餘計に傳染するやうになるのであるが是れは人間の弱點としまして、斯の如き疾病の廣がつて居る結果としまして遂に國民全躰の健康を害すると云ふやうな事になる即ち是等の病氣の結果は或配遇者の一人が此の病氣になつた爲めに又た一方にも廣がるソーシて子孫迄遺傳して來るので其の小供も遂に片輪になると云ふやうな事になるのであ　（聽取れず）．．歐羅巴の婦人科の或醫者の統計に依れば百分の六十はコー云ふ性質の病氣が原因で起つたものであると申して居ります、是れは云ふまでもなく皆傳染するもので兎に角斯の如く此の病氣の廣がると云ふに就ては吾々は餘程注目しなければならん、復た總ての人も充分注意しなければならない、尤も此の梅菌は器物抔に着いて居つて夫れから傳染する事もありますがソー云ふ事はゴク稀れであります、　看護婦とか乳母とか云ふものに傳染るやうな事がありますけれども極めて例外デ其の多くは男子に……（聽取れず）　同時に此の疾病を傳播させる或婦人がある爲めに斯の如く大なる事になりまして知らず／＼の間に遂には良家の子女の間にまでコー云ふ病氣が廣がると云ふは誠に嘆ずべき事であります……哀れむべき病氣を豫防し且つ一般社會の人の品行を矯正しなければ到底此の

病氣の根元を斷つと云ふ事は出來ない。近來コー云ふ病氣の廣がるは誠にヨクないと云ふので歐羅巴に萬國會議を開いたのでムいます、此の病氣を防ぐ爲めに特に萬國會議とヽふを開いたやうな有樣であるから世界デ此の點に對つて奈何に此の病氣が世の中に害毒を及ぼすかと云ふ事は大抵お分りになるだらうと思ます、斯の如き問題の事柄を申しまするは甚だ好ましからむ事でありますが併し之れは今日に於て尤も注意しなければならない事であらうと思はれるので‥或は復た之れを職業的にして居る憐はれむべき婦人。女子があつて此の病氣を傳播させると云ふやうな事は充分吾々に於て之れを防ぎ其の人間に正當な職業を與へるやうにし、また道德上から適當な‥（聽取れず）‥陷らしめないやうにするが必要であらうと思はれます、誠に實際の話を申し上げたので、簡單でムいます、御注意迄に申したのデ甚だ‥‥‥‥‥‥

（終り）



衛生雜話

醫學士　久保猪之助

●小兒の爪垢のおそろしい理由●

前回に私はキタナイ爪は黴菌や、毒物の貯藏所であるといふ事を申しましたが、その爪垢は小兒のが一番おそろしいのです、殊に這ッて居る時代の小兒です。近來獨逸の雜誌を見ましたのに小兒、殊に這ッてある時代、即ち六ヶ月から二歲位迄の子供の爪を取り結核菌のあるかなきかを調べた人があります。六十六人の小兒に就いて調べた所が、その中十四人の小兒には爪垢の中に、おそろしい結核の黴菌が居ッたッーです、ですから百人ならば二十一人と少し、十人ならば、二人程には、結核の黴菌が居る譯です。

●疊の上の塵●

小兒が這ひ出す樣になれば、自らも人も悅んで遊ば

せる。所が小兒といふものは、イッデモ指先を甞めたり。物を見付けては、ネブッたりする癖のあるものです。キタナイものでも、毒なものでも、差別はありません。直ぐに口の內へ持ッて行く習慣があります。ですから、板の間の上や疊の上に、結核の黴菌が、こぼれて居れば、すぐ手につけるか、爪の間に挾んで、持て行くでしよう。もしも家の內に、結核に罹て爲る人があるか、又は、罹た人が住んで居つた時分には、必ず多少の結核黴菌がまじつてある譯です。又、借家をする身分の人であれば、前に住まッてゐた家族に結核の病人があつたのを、知らないで這入れば、物の差別なく、部屋の隅々を這ひまはる子供には、一番さきに、結核の黴菌が拾ひ上げらるゝでしよう。殊に子供が手をねぶる習慣のある時は、塵が多く附きます。斯樣にして、とり上げられたる、結核黴菌まじりの塵が、爪の下には、一番ながく殘つて爲ます。

●爪と口と●

かやうにして、取り上げられたる爪垢の結核黴菌が傳染するには、子供が手を舐る習慣の爲めに、之を口に移します。もし口の中が丈夫であれば、飲み込んでも、結核に罹る心配はありませンが、もし齒がわるかつた爲めに、口に傷ができてをるか、又は扁桃腺のたゞれてをれば、すぐ結核黴菌はは入ります。又兩親が其子の爪を、齒で取る習慣の人がありますが、それは非常に危險な事であります、又、迷信の關係から、子供の爪は、つむものでないと、心得て爲る人がありますが、それは大なる誤りです。小さい子供によくグリグリ(瘰癧)が頸に出來て爲るものですが、それ等は多くは、口から結核黴菌がは入つて頸の淋巴腺に集つたものです。して見れば、爪垢——結核黴菌——口——グリ〳〵。かういふ關係を見たならば、子供の爪の養生は、油斷がなりません。あまり延びない中につンで、みがいて滑かにしてやる。つみ放しなのは、危いです。なぜといふに、子供が手を握つた時、自分で和かい掌を傷けて、

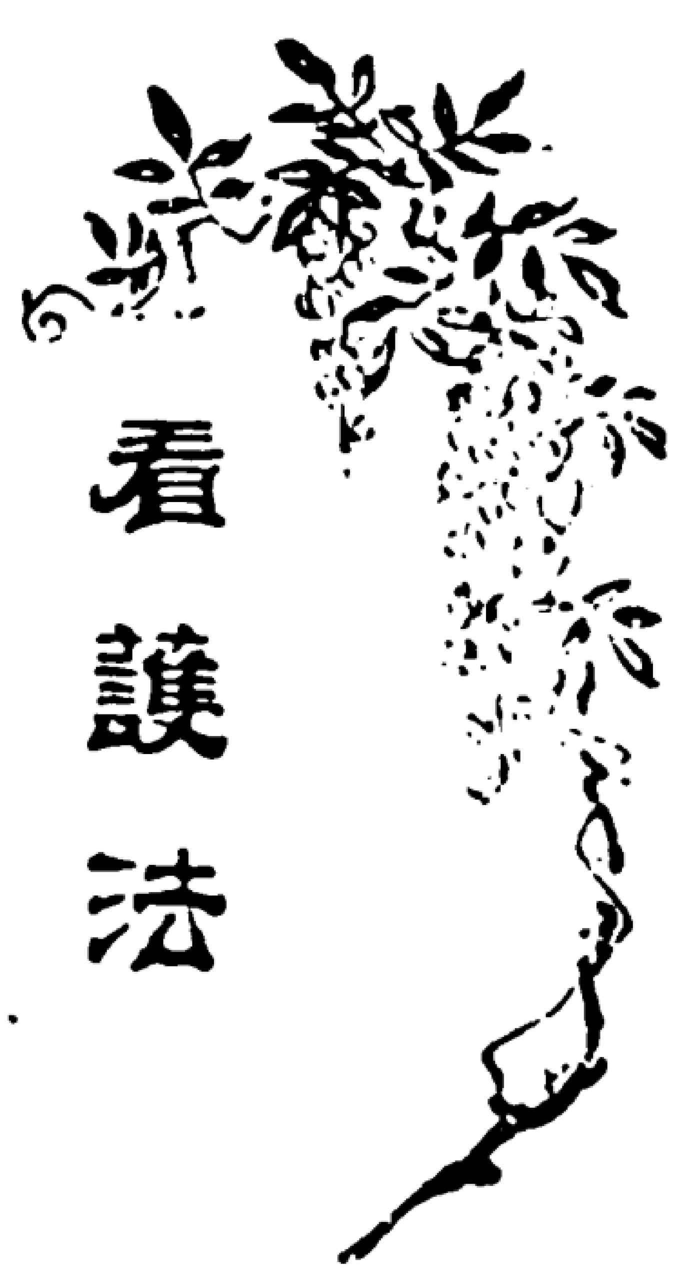
膿をつくる事があります。又始終、きれいに掃除してやるといふ事が必用です。

●爪を剪む心得●

爪は動物のやうに、長く延ばして置くのは、見にくい計りでなく、前申したやうに、衛生上、非常な害をなしますから、ぜひつまなければなりません。爪を剪むには、剪刀を使ふ人もあり、小刀を使ふ人もあり、又、鉗子を用ゐる人もあります。併し、良く切れる丈夫な鋏が、一番よいです。なぜといへば切れないもので切れば、爪の先きが、さゝらになッて、危い。又、爪をはがす事があります。

どの位の長さに切るといふ事が、又考へものです。爪の先を殘し過ぎれば、剪ンだ役に立ちませぬ。さればといつて、あまり短く剪み過ぎれば、肉を剪む事があります。たとへ肉を剪まないにしても、短きに過ぐれば、指先に少しの創を受けても、すぐ爪と肉との間が傷きます。爪の生えぎわが傷けば、それからわるいものがは入る事は、言はずと分つた事でしよう。又それ計りでなく、爪を短く剪み過ぎれば、指先の形が變ります。即ち、太鼓の撥のやうに變ります。そういふ次第ですから、爪を殘す所は、凡そ指先の端と、同じ位にして、爪の兩端は、丸く切らぬがよい。丸く切れば、指先が、爪の爲めに、壓迫されて、創を作る事があります。」

又、爪母の所に、皮が澤山かぶれば、よくサヽクレのもとになりますから、平常氣をつけて、少しのびれば、直ぐにきれいな、鈍い器械で、少しづゝ皮をもどし返す事が必用です。」



●局部の消毒

此稿は嘗て學士櫻井恒次郎氏の洋行前寄送せられしものに係る本欄に關係深きものなれば茲に挿入しぬ

手術を施したり、傷に繃帶を施す前は勿論、繃帶を

取換ゆる毎に、其部分を消毒する事は、外科的の看護に最も必要な條件で御座います、斯くは申すものゝ、決して看護をなさる方が、傷に手を觸れて好いと云ふのでなくて、唯だ傷の周圍を消毒なされば好いので御座います、これには前に述べた樣にして、消毒した手と消毒をした器械で、傷の周圍を大凡そ一尺位、廣く消毒するので御座いますが、これも亦三段に分けて、御話した方が分り好いと思ひます、

第一に湯と石鹼で「ブラシ」を用ゐて、大凡そ三分から五分間位洗ふので御座います、此際傷の周圍にある毛髮は悉く剃り取つて、(若し手であれば爪を奇麗に切り取つて、爪の垢を奇麗に洗ひ去る事を忘れてはなりません)其上を清潔な布片に水を付けて、よく揩るので御座います、消毒した「ガーゼ」を用ゐれば、尚ほ宜しう御坐います、最も好いのは只だ傷の周圍を洗ふ代りに、全身を入浴させるので御坐いますが、此際傷に水が這入らない樣に厚く繃帶して、其上を水の這入らない樣な物で、被ふて置く事を忘れてはなりません、全身を入浴させた上で、清潔な着物を着せるのは勿論、申す迄もない事で御坐います、

第二は前に述べた樣にして、洗つた皮膚の上を「アルコール」とか、「エーテル」とか、「ベンチン」とかの類で洗ふので御坐いますが、これには消毒した「ガーゼ」の上に、此等の藥を滴らして、それで幾度も取換へて、少しも布片が垢で汚れなくなる迄皮膚の上を摩擦するので御坐います、

第三は此上を尚ほ千倍の昇汞水、或は百倍の「リソール水」で、大凡そ一分間も洗ふので御坐います、勿論洗ふのには消毒した「ガーゼ」に付けて洗ふので、決して汚い布片などを用ゐてはならないので御坐います、若し不潔な布片抔を用ゐますと、其爲に患者の生命を危くする事が御坐います、又此等の藥を入れます器物などは、勿論用ゐます前に充分清潔に洗ふ事が必要で御座います、又頭部の傷で小さな傷であれば、其周圍は大凡そ一寸位は、頭髮を剃ら

なければなりません、又傷が大きければ、頭髪を殘らず剃つて仕舞はなければなりません、又腋の下や臍の孔や、股などは誠に消毒しにくい部分でありますから、此近傍に傷をした場合には、此等の部分は殊更らに注意して、消毒を施さなければなりません

前に申しました、「アルコール」「エーテル」「ベンチン」抔の藥は、誠に揮潑し易い藥で、從つて容易く火を呼びまして、屢々危險を惹き起しますから、これを用ゐます際には、直く栓をする事と、可成火を遠ざける事とを忘れてはなりません、

以上は始めて傷に繃帶をする時や、手術を施す前にする消毒方法を、述べたのでありますが、繃帶を捲き替へる場合には、斯程迄にせずとも、石炭酸水、昇汞水の類を「ガーゼ」に浸して、それで拭つて置けば好いのであります、

尚ほ一つ看護をなさる方に、注意をして置きたい事は、一旦傷を拭ふた「ガーゼ」の類は、直ぐこれを別の容物に投げ入れて、決して再び用ゐない樣にしなければなりません、又繃帶捲き替への時には、決して傷に附着して居る血の塊や、膿抔を拭ひ取つてはなりません、なぜと申しますのに、血の塊を取れば折角止つて居る血が、再び傷口から流れ出ます、又膿は別に取らなくとも、傷の上に當てがふ「ガーゼ」が、自然に吸ひ取ります、勿論傷に木片とか、石の碎片とか、蟲とか、毛とかと云ふ樣な物が、附着して居つた場合には、注意して取り除く事は、申す迄もない事で御坐います、

扨て前に申しました樣に、消毒を致しますのに最も必要なのは、消毒液で御坐いまして、其内でも最も廣く用ゐられて居るのは、昇汞水で御坐います、

昇汞水は昇汞と云つて、水銀の化合物で、白色の藥を一旦煮立てた水に溶したもので、通常千倍の溶液を用ゐて居ります、此溶液は醫者や、看護をなさる方の手を消毒したり、病人の皮膚を消毒する爲に用ゐますが、頗る毒なもので長く用ゐて居ると、皮膚を犯し、又金屬製の道具は、此の溶液に觸れます

と、損しますから、決して此の藥は眞鍮とか、銅とか或は又「ブリキ」とか云ふ樣な、金屬製の容物に入れてはなりません、必ず硝子製或は陶器製或は鐵に瀬戸を掛けたものでなければなりません、此の藥は又口中や腸などを洗ふには適當しません、

昇汞水を製しますのには、豫め昇汞一に付「アルコール」一〇の割で溶して置て、之を一〇グラム」丈取つて、其上に之と同量の食鹽を加へて後ち、一、〇〇〇「グラム」の一旦煮立た水を入れて、混和すればそれで昇汞水が出來上るので御坐います、藥店に御出てになると、昇汞錠と云ふものを賣つて居ります、此れは昇汞食鹽杯を混和して調製したもので、此れを一定量の水に溶しますと、すぐ溶解して昇汞水が出來ますし、其他又保存にも持運びにも、至つて便利で御坐います。」

昇汞水は至つて好い消毒液で御坐いますが、臭氣もなければ味もなく、亦色もない溶液でありまして、然も非常な毒藥でありますから、屢々誤つて之を飲用して中毒する事が御坐います、そこで之を防ぐには、昇汞水に「エオシン」と云ふ色素を加へて、色を付けて置くと宜しう御坐います、之は赤い色素で昇汞一「グラム」に付き、五「ミリグラム」の割で混じますと、千倍の昇汞水が僅かに紅色を呈し、之を日光に透して見ると雲がのつて見へます、從つて誤つて飮む危險も尠なくなります昇汞に次で廣く用ゐられて居るのは、石炭酸水で御坐います、

石炭酸水は五％即ち二十倍のものを用ゐます、此れは「ゴム」管とか、海綿とか絲とかと云ふ樣な類を、貯へて置くのに用ゐ、又「カテーテル」や注射器を消毒しますに用ゐます、併し此の藥は刺戟が強くて、而も中毒し易ふ御坐いますから、傷には用ゐません、

石炭酸を拵へますのには、先づ石炭酸を溶かさなければなりません、此れは御存じの通り結晶して居りますから、之れを一〇に付き水なり「アルコール」なり、「グリセリン」なりを一の割で加へて、溶します

と、丁度九〇%の溶けた石炭酸が出來る譯で御坐います、此れの三〇「グラム」を取り、之れに五四〇「グラム」の水を加へて溶しますと、丁度二十倍の石炭酸水が出來ます、又九〇〇「グラム」の水を加へますと、三%即ち大凡そ三十倍の石炭酸水が、出來る譯で御坐います、次ぎに

硼酸水は、通常三%から五%のものを用ゐますが、此れは温めて膀胱などを洗滌するに用ゐます、此れを調製しますのには、三〇「グラム」の硼酸と云ふ白く結晶した藥に、一〇〇〇「グラム」の湯を加へて溶しますと、三%の硼酸水が出來ます、五〇「グラム」に一〇〇〇　グラム」の湯を加へますと、五%の硼酸水が出來ます、次に近來頻りに用ゐますのは

「リゾール」水でありまして、此れは黑く茶色の粘つた一種の臭を有する藥で、此れは一%にして器械や手を洗つたり、或は又傷の周圍の皮膚を消毒するのに用ゐます、此を調製するのには一〇グラムを千グラムの水に溶かせば好いので御坐いますが、此の藥の瓶には度盛りのしてある、錫のかぶせ蓋が付て居ります、此れの一筋が丁度一〇グラムに當ります、扨て以上述べました、消毒液を作りますのには、可成注意して分量の間違はぬ樣にしなければなりません、總て消毒液は弱ければ利かず、强ければ中毒しますから、最も正確に分量を測つて調合しなければなりません、此れには看護をなさる方は、常にちやんと檢定のしてある「オンス」量衡を、手許に備へて置かれる事が必要で御坐います、」



新年會餘興講談

(明治三十六年一月十日大日本婦人衛生會新年會席上)

太閤殿下桃山御歌合

松林伯鶴口演

佃速記事務所員速記

太閤殿下桃山の御歌合と云ふ御話は、新年の御餘興としては適當であらうと存じまして申上げますが、全躰太閤秀吉公は御承知あらせられます通り、尾張國中村の百姓筑阿彌彌助と云ふ者の子息、農家から出まして御成長の後に攝政關白とまでなりました、尤も子供の中は至つて惡戯小僧て、椀白て仕方がなかつた、子供の時が椀白て後に關白になつたと云ふ、どうも日本の歴史の上におきましても珍らしい事、之には西洋人も感服して居りますさうて、唯困りました事は、太閤殿下は不學者であつたと云ふ、所が此頃文科大學て非常に御調査なすつた結果に依るとどうして、太閤殿下は不學者どころてない、博學多才の御方て、詩文は勿論本歌も詠まれたと云ふことが分りました、兎に角秀吉公は日本の豪傑の一人であつて、御歌は細川幽齋公と云ふ御方が始終御側に御附添なすつて御教導申上げた、和歌と云ふものは中々難しい「思ひきや」と起せば「とは」と結ぶ、「こそ」とかゝれば「けれ」と結ぶと云ふ位の事は吾々も存じて居りますが、意味深重に鬼神を泣かしめると云ふやうな歌は迚も出來ませぬ、鬼神どころか子供だつて泣かせることは出來ない、實に歌は日本の美術の一つ、即ち支那人が詩を作りますのと同じに、我が日本では三十一文字を連ねて意味を深重に籠らせ、鬼神をして泣かしむると云ふ、左れば小野小町が

　　理りや日の本なれば照りもせめ
　　　さりとてはまた天が下とは

と詠むと、天感應まし〳〵て旱天に雨を降らしたと申しますが是は歌道の徳、太閤殿下はそんな事は御存知がない、所が公卿殿上人が大勢集つて　甲「時に如何でござらう、關白殿下は亂世に生れ武勇に於ては天下に及ぶ者はござるまいが併し御氣の毒様だが敷島の歌の道は御存知があるまい　乙「成程　甲「そこて殿下に、題を出して、此題へ一つお附けを願ひたいと言へば、殿下の御氣量だから何とか御附けなさるに違ひないが何と御附けなさるか一つ題を出して

見やうぢやないか　乙「成程、それは一段と興あることであらう」と話をして居る所へ殿下が御登城になつた　公卿「エー殿下の御登城を御待申して居りました　秀吉「何だ　公卿「唯今こゝに歌の題が出て居りますが、吾々共にはどうも佳い歌が出來ませぬ、奥山と云ふ題で何か御附けを願ひます　秀吉「宜しい」宜しいと云つて實は知らないんだが、負けることの嫌ひな御氣性でございますから出來ないとは言はない、即席に　秀吉「奥山に紅葉ふみ別け啼く……　公卿「イヤそれは可ませぬ猿丸太夫がモウ詠てしまひました　秀吉「左樣か併し予のは別ぢや……奥山に紅葉ふみ別け啼く螢……　公卿「ヘエ……螢……猿丸太夫のは鹿で貴下のは螢、螢が啼きますかナ――もう一つ池水と云ふ題がございます　秀吉「ウム池水と申すか……池水に蛙の眼球あぶない……　公卿「ヘーエ：……池水に蛙の眼球あぶない……ハテどうも奇態な事がございます、實にどうも恐入つた……オヤ〱殿下はいつの間にか御退出になつて仕舞つた」とアトて一同は腹を抱えて笑ひ興じて居る。

殿下に於ては毒蛇の口を逃れたやうな思ひをして桃山御殿へ御歸り遊ばすと、加藤主計頭清正、福島左衛門太夫正則なんと云ふ天下の豪傑が八十餘人ズッと居並んで居る、正面に着坐したが、腋の下に流るゝ冷汗を御拭ひ遊ばして　秀吉「是迄味方の敗軍した報知を聞いて驚いた事もあつたが今日ほどではなかつた、今日公卿が大勢集つて驚かし居つた　加藤「ヘエ、何となされました　秀吉「予に歌の題を出し居つた　加藤「左樣でございますか、其の題は……　秀吉「奥山と云ふ題で知らぬと云ふのも殘念だから、「奥山に紅葉ふみ別けなく」と云ふと、それは猿丸太夫が詠んだのだから可ぬと云ふからイヤそれは鹿だ、予のは螢だ、「奥山に紅葉ふみ別けなく螢」とやつてのけた　加藤「へゝエ……

　啼くのが情か啼かぬが情か
　　蟬とほたるの情くらべ

と云ふ歌がございますが、矢張螢も啼きますかな　秀

吉「それはまだ予も知らぬ　加藤「知らぬのに御詠みなすつた‥‥　秀吉「ウム、それから池水と云ふ題て「池水に蛙の眼球あぶない」‥‥　加藤「ウエーッ‥‥‥」此時傍らに居つたのが細川藤孝入道幽齋と云ふ歌道の達人、其處へ進み出てまして　幽齋「唯今君公の御詠みなされた、奥山に紅葉ふみ別けなく螢と云ふのは少し御無理で、けれども御無理の時には

奥山に紅葉ふみ別け啼く螢
しかとは見えぬ杣の燈火

斯樣に致しますと、暗の夜に啼いた鹿の形は見えない、螢が啼いたのではないかと云ふ情がうつるやうに相成ります　秀吉「ウム、なる程、實は予も左樣やる積りてあつた‥‥池水は如何ぢやナ　幽齋「池水に、蛙の眼球あぶないては少し御無理て

池水に孑孑虫のわき出て
かへるの眼球いともあぶなし

斯樣遊ばすと、古池の態が寫し得て妙てございます　秀吉「なる程　幽齋「唯歌と申しますものは、山を山と言はず、月を月と言はず自から其形を現はすのを意味深長と申して尊びまする　秀吉「ウム、然らば山を山と言はず、月を月と言はず其形を現はすのぢやナ　幽齋「左樣でございます」固より殿下は氣量人て居らつしやるから　秀吉「宜し、幽齋出來た　幽齋「ハ、大層お早く‥‥　秀吉「宜いか

地瘤蔭星のおやぢがズバ拔て
火事の玉子を吹消にけり

とは如何ぢやナ　幽齋「ウフフ、、何だか些とも分りませぬ　秀吉「分らぬ筈はないぢやないか、今其方は歌は山を山と言はず、月を月と言はずに現はせと申したらう　幽齋「左樣て‥‥　秀吉「それだから斯く詠んだのだ、山は地に出來て居る瘤だ、地瘤蔭と云ふのは山の蔭だと思へ　幽齋「ウエッ‥‥宛然判じ物てございますナ　秀吉「星のおやぢがズバ拔けとも申すは、空に光つて居るのは月と星て、月は親て星は子だ、星のおやぢが山の蔭からズツと出たのだ、山の蔭からズバ拔けると、今迄提灯を點けて歩いて居

た人が、此の澄みわたる秋の月に、提灯の光りは無益である、月明の邪魔になると云ふので提灯を消す、併し提灯とは言へないあれは火事の玉子だ、詰り山の陰から月が出たゆゑ提灯を消して仕舞つた、斯う云ふやうな意味である　幽齋「それは可ませぬ、歌にもならず、判じ物にもあらず、地口にもならず何にもなりませぬ　秀吉「ウム、何にもならぬか、成程歌は難しいもんだノ、思ふやうに言はれぬものぢやナ」と仰せられると細川幽齋が進み出てまして　幽齋「恐れながら思ふやうに言はれぬものぢやと仰せられたのは面白い、之を思ふやうには言はれざりけりと致しますと直に下の句になります　秀吉「ウム成程、思ふやうには言はれざりけりか、コレ／＼此の思ふやうには言はれざりけりと云ふ下の句に上の句を附ける者はないか」と坐中を見渡しますと、曾呂利新左衛門と申します、是は泉州堺から出てました者で、まことに氣轉の利いた、茶道にも達して居る太閤殿下御氣に入の、曾呂利と云ふ俳諧師、其處へ進出て「恐れながら思ふやうには言はれざりけりと云ふ句へ附けましてございます　秀吉「ウム何と附ける　新左「恐れながら君公が時々御無理を仰有る、どんな御無理を仰有つても家來としてお逆らひ申すことが出來ない、新左衛門なども是迄それは御無理だと思ふことがあつても、君君たらずとも臣は臣たるの道を以て事へなければなりませぬ　秀吉「コレ／＼新左、其方は何を言つて居る、早う上の句を附けい　新左「そこで

　無理を言ふ主人の前て理窟をば
　　思ふやうには言はれさりけり

などゝは如何‥‥　秀吉「ウムなる程是は巧い」と仰有ると、傍らから進出てましたのが石田治部少輔三成聲高らかに

　麥こがし口に一ぱい頰張れば
　　思ふやうには言はれざりけり

秀吉「なる程面白いナ、歌といふものは面白いものぢや、予は今日より歌を研究する、幽齋宜しく敎授

をせよ、就ては此の座中に歌を詠む者はないか予は何ても大きい事が嗜好だ、大きな歌を詠む者があるなら其處へ出て申せ」此時福島左衞門太夫正則進出てまして

　五畿内に蔓る程の梅のはな
　　天地に響くうぐゐすの聲

秀吉「ウム、五畿内に蔓る程の梅の花天地にひゞく鶯の聲、なる程大きいナ、其上大きいのはないか。「ございます　秀吉「誰ぢや　吉隆「大谷刑部少輔吉隆でござる　秀吉「何と云ふ歌ぢや　吉隆「然れば

　富士の山枕となして寢て見れば
　　蝦夷松前に足やとゞかむ

秀吉「これは中々大きい、然らば斯う致さう、もし此上に尚ほ大きい歌を詠む者かあつたら予の印籠を取らせやう」と腰なる印籠を取つて前へお置きなさる、斯うなると品物が欲しいと云ふばかりでない名譽でございます、一同が名譽を得たいと云ふのてウン〳〵いきんて考へ込んだが、何しろ富士の山を枕にして寢た奴なんぞあつたんだからむづかしい「エー幾ら大きくも宜しうございますか　秀吉「ウム宜しい、誰ぢや　行長「小西攝津守行長　秀吉「何だ」傍らて細川幽齋が書留めて居る　行長「唯今承はり居りますと、福島大谷の歌などは皆な日本たけの事を言つて居る、恐多くも殿下の思召は左樣な小さいものてはない、天は一つの光りを以て世界を照らすならば、世界中一人の國王を以て御支配遊ばされぬと云ふことはない、故に世界中を主上の御支配になさむと云ふのが殿下の思召、佛說に須彌山と申すは是れ世界の事‥‥　秀吉「ウム分つた、何と云ふ歌ぢや　行長「然れば

　須彌山に腰打掛けて大空を
　　笠に被れと耳はかくれず

秀吉「なる程、世界に腰を掛けて空を笠に被つても耳が外へ出る、中々大きい、其方か一番だ、其方に印籠を取らせるぞ、近かう〳〵」と仰有ると「暫らく〳〵、唯今の歌小さいことゝ蟲眼鏡を以て見るごと

し　秀吉「ヤツ、大層な事を言ひ出した奴があるわい、誰ぢや「拙者でござる」と大紋の袖を掻合せて悠々進み出てましたるのは、長東大藏太輔と云ふ仁　秀吉「大藏、其方のは如何云ふ歌だ　大藏「ハッ

天と地を團子に丸め一口に
　呑めども咽喉へ觸らざりけり

秀吉「なる程　大藏「唯今の歌を聞きますのに、縦令大きいにしても、世界に腰を掛けて空を笠に被つたと云ふのは眼に見えて居ります、見ることも量ることも出來ないのをこう無量宏大と申す、眼に見えて居る天と地を團子に丸めて呑んでも咽喉に觸らないと申せば、此方が餘程大きいかと心得ます、御印籠拜領難有い仕合、拙者が拜領いたすでござる」言ふと細川幽齋公「アイヤ暫らく　大藏「細川殿は何で……　幽齋「其の御印籠は拙者が拜領いたす　大藏「左樣ですか、骨折に貴下が拜領なさる……　幽齋「イヤ拙者のは貴殿のよりも少し大きい

天と地を團子に丸め飲む人を
　鼻毛のさきで突飛しけり

秀吉「なる程、天と地を團子に丸めて飲む人を鼻毛のさきて突飛す、是は又大きいな、然らば印籠は其方に與るぞ」と云ふ時に曾呂利新左衛門進出でましたが、何に致せ此男は俳諧師、當時上流方へ御出入をして、吾々が餘興に御話を申上げますやうに、高位高官の玩弄物になつて人の心を和げるされば、幇間の先祖は曾呂利新左衛門だなどゝ言はれる位の人物だから　新左「恐れながら細川殿は御歌所にあつて御教授、此の位の歌の出來るのは當然、殊に幽齋公などは斯樣な品物は幾らも拜領なされて居るから欲しくもござるまい、私などは拜領したことがございませぬから何うしても取りたいんて　幽齋「コレ新左、取りたいと云つて如何して取る　新左「然れば幽齋公と歌の問答を致しませう、私が題を出しましてそれに句を御附けなさる、附け損なつたら貴下が負けで私が御印籠拜領、殘らず附けられたら私が負け、斯う云ふ事に致しては如何……」傍らで御聽きにな

つた秀吉公「ウム是は面白いぞ、早々問答をやれ、新左題を出せ　新左「ハッ、「木の梢にも國が二箇國」　幽齋「ヤッ、それは容易うていかぬ　新左「容易うがすか　幽齋「どうだ新左

毬(伊賀)割れて飛んで出でたる丹波栗(丹波)
　木の梢にも國が二箇國

新左「ヤッ出來ましたナ、是は取消し〳〵、もう一つ「足の下にも國が二箇國」と云ふのでは如何幽齋「宜し〳〵

足もとに飛んで出たる青蛙
　ギウと踏んだる美濃尾張(身のをわり)かな

新左「ヤッ是もいけない、取り消し〳〵、もう一つ難題を出しますヨ「火事が凍つてつべたかりけり」　幽齋「そんな事があるか、火事が凍るなんて：……　新左「無い所をやりますのが難題で、お附けなさらなければ御印籠は拙者が拜領……」此火事が凍つてつべたかりけりと云ふ題が出ました時に、嫣然笑つた豊太閤、いかに歌道達人幽齋でも、之には附けられまいと思つて居ると驚いたもんで幽齋「新左、「燒討の」と云ふのだナ　新左「ヘエ、燒討の……　幽齋「宜いか

燒討の武者繪が寒の水に落ち
　火事が凍つてつべたかりけり

新左「なる程、燒討の武者繪が寒の水に落ち火事が凍つてつべたかりけり……是も取消し　幽齋「さう取消してはいかない　新左「イヤ取消します、それならばもう一つやります何うしても貴下に出來ないと云ふ所を……「圓く四角で長し短し」と云ふのは如何です　幽齋「何だそれは……　新左「是が下の句で、即席の上の句を御附けなさい、其昔安部宗任貞任が奥州に楯籠つたのを、八幡太郎義家が前九年後三年に於て征伐なし、或時義家貞任に邂逅ひ「衣のたてはほころびにけり」と下の句を詠むと、此時はるかに「年を經し糸の亂れのくるしさに」と上の句を附けた、斯る戰場吶嗟の間に歌を作つた例もある、圓く四角で長く短しの下の句、幽齋公に出來ぬければ私

が御印籠拜領、難有い仕合・・・　幽齋「アッ待て〱、貴様は氣の短い男だ　新左「待てなんと、首をひねて考へては可ませぬ　幽齋「宜し、圓盆にと云ふのだ　新左「圓盆に、あとが四角に長いのに短かいの・・　幽齋「默つて聽いて居れ

圓盆に豆腐を載せて持つ跛者
まるく四角で長し短し

新左「ヤッ・・・」と云つた新左衛門、太閤殿下の前に在つた御印籠をヒョイと攫つて逃出さうとした、其時殿下が「コレ新左、無禮であらうぞ」と持つて居た扇子で肩をお打ち遊ばすと　新左「御免遊ばせッ」とヒョイ倒れます途端にプーイと音をさした苦し紛れに・・・　秀吉「何だ新左、驚いた奴だナ此奴は・・

新左「こゝて拙者に御印籠拜領を願ひたい　秀吉「それは遣はさぬ事もないが何だ　新左「是が歌になります、國二ヶ國の歌になります　秀吉「何が國二箇國だ放屁してと申すんですナ　秀吉「ナニ・・・　新左「エー・・・・・・・・

放屁して國二箇國を儲けゝり
頭はりまに尻はびッちう

秀吉「なる程、是はどうもズンと優れて居る、盡し得て面白い、然らば印籠は其方に遣はす　新左「難有う存じます」到頭新左衛門が御印籠を拜領したが、是も歌道の德だ　秀吉「さて〱歌と云ふものは面白い、予は是から飽くまで歌を研究するぞよ」と仰有つて、細川幽齋公を師匠として御稽古遊ばしたが、御他界の後に見ると、御名歌が何百首あつたか數知れず、今以て細川家また黑田家等に澤山遺つて居りますさうて

引かるれば惡き道にも入りぬべし
心のまゝに手綱ゆるすな

細川幽齋公が御敎導申上げたからとは申しながら、斯くまで名人になられたと云ふのは天稟の御氣量、日本の豪傑には違ひない、又後の人の笑ひを留められたと云ふのも全く歌道の德でございます、是れぞ桃山御歌合と云ふ御話、甚だお聽苦しうございまし

たことゝ存じ入ります。



衛生時事

風邪のつゞき　醫學士　久保猪之吉

●弱點●

大きい堤も蟻の孔から壞れる譬あり、何事でも先づ弱い場所から損じて來る。病氣もその通り風邪もその通りです、今玆に二人あッて同じ時に同じ水に這入ッて風邪を引くとしても、その結果は同じではありません、又足を冷しても、足に風邪を引くといふ譯では無い、肺の弱い人は肺に病氣を起し、肋膜の弱い人は、肋膜炎となる、咽喉のわるい人は咽喉病を引き起します。是が即ち人々の弱點といふものです。

●弱點は求むべく避くべし

人によッては弱點を、自分から求める人があります。例令ば夏でも冬でも同じやうに、本「フランチル」のシャツを着て居る。又は首から襟卷をはなした事が無いといふ人があります。ソーなると折角神樣が、暑さ寒さに堪へられるやう作ッて下さッた、皮膚のはたらきを弱めます、一寸、肌を出せば直ぐと風邪を引く。又、襟卷をとれば直に咳が出るやうになッて仕舞ひます。此點は人の母たる人が子供を育てるに餘程注意すべき事だろうとおもひます。昔から「可愛兒に旅させる」といッたのは此邊の眞理を洩したのだとおもひます。

之と變ッて弱點には平生から注意し、此を丈夫に抵抗强いやうにする事が肝腎です。肺が弱ければ肺の運動をよくする。又皮膚が弱ければ暑い頃から冷水にて身體をふくことをならし、オしまひには冷水をも浴びるやうにして行く。そうなると少し位の氣候の

變りやすい事があッてもよく耐へる事が出來ます。しかし注意するのは一時に變る事がわるい。習慣は自然々々と直して行かなければいけません。襟卷がわるいと聞いて寒い朝から早速とッてのけるといふやうでは、却てわるい、徐ろに直していくのが最も大切です」

●風邪を引きやすい日。

寒氣に曝されゝば直ぐ風邪を引くといふ譯はありません。第一は寒氣に違ひ無いけれども第二は風てす。寒さがつよくて風があれば風邪を引きやすい。日本てかぜといッたのもその爲てしやう。しかし第三に濕氣てす。寒風がふいたばかりては割に風邪を引かない。所が濕氣が加ッて雨がふるか、雪霙が降ッて來れば一番風邪にかゝりやすい。ソーいふ時一番注意を要します。ソレて春や秋などの時候の變り目が、おそろしい。

●風邪を引きやすい場合。

寒風の中に曝されても身體の活いてをる間は暖たかい。風も引かぬ。しかし一度靜かになると危險てす。例令ば人力車の内や滊車の内て、隙もる風と雨とを身に受けたりする時は一番おそろしい。又身體の汗の付いて居る時例令ば非常に運動をして、汗てビッショリなッた跡て急に着物を薄着にして休ンだりしますと風邪引きやすい。ぬれた時も同じです。雨にあッて着物のぬれたりする時は早くぬぎかへなければいけない。又夜間ねて居る間が一番風邪引きやすいのです。若し窓の半分あけ放してある時に障子等に破れのある時氣が付かずしてねてしまひますと、夜中に雨が降り出す、風が吹く。自分はしらずにねて居る。ソーいふ工合に朝起きて急に咳が出て頭が重く、熱があるといふ事があります。又病身の人は人より早く風邪を引きやすい。いづれも注意を怠ッてはいけません。

●皮膚を丈夫にする法。

風邪を引かぬ工夫はドゥかと申すに「フラン子ル」で十重廿重くるンで、室内の溫度は何時でも廿度から

十八度位に保ッておけば風邪は大丈夫とおもはれますが、ソレは下手なやり方です。諸姉は昔し豊臣秀頼てしたかゞ、臆病で軍がこはいから、冑を十重も重ねて戰に出たいといッてその臣に非常に諫められた話を御存知でしやう、心が怯くてはいくら冑でかためても丸に中る。同じ事だ身體が弱くてはいくら着物を着ても風邪を引く、身體さへ達者であればイクラはだかとなッて雪中へ出ても風邪を引く心配はないですから皆さんに此後の方法をオすゝめしやうとおもふのです。何が一番よいかといへば、冷水で皮膚を丈夫にするのがよろしい。それは室の內でよいから。身體の一部一部を出して、冷たい水で絞ッた手拭又は海綿で赤くなる迄こするのです。之は兒供からならすのが一番よろしい。その摩り方法は先づ腕、次に顏、頸、胸、腹、背、脚といふ順序に早くコスルのです。はじめはツライが、なれてくると愉快でたまらない。誰でも何程、無性でも、顏を洗は無い人はありますまい。ソーてあッてみれば身體をふく事を覺えると、之をやめる事が出來なくなる。又やらぬと氣持がわるくなります。之は冷水法の內で一番簡單で一番やりやすい。又功用もあります、皆さんぜひ、御やりになるやう、年の初めの御すゝめとして申しあげるのです。初めてやる時は少しづゝ僅かの時間やればソレてよろしい。アマリやり過ぎて風邪を引いてはイケマせん。サヨナラ」

●箴言

安樂常ニ思ニ病苦ノ時ニ云ふ意は病なく安樂なる時に初め病に苦しめる時を思ひ出し無病の時よく愼み怠らざれば病生せず是病起りてより良醫良藥をたのむに勝れり





質疑欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きもの又は急ぎの分は答解の限りにあらず●答解に遲速あるは到着順又は答解の都合と御承知を乞ふ　●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事　●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし　●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

問　私の親戚の者淋病にて困り居り候に付如何せば宜しく候哉毎日の入浴は惡しく候や牛肉等日々食しては宜しからず哉但し食養生おはさば御教示を乞ふ

質問者　大坂　みれ子

答解者　醫學士　米山彥郎

答、淋病は普ねく世間に擴がりておる傳染性の生殖器の病氣て生命にこそ直接の關係はないが或る意味に於ては頗る懼るべき病氣で特更御婦人方にとりては由々しき疾患を釀もす主な原因をなすものでありますから豫防上一般の事を御知りおきを願ひたい。此病氣は淋病患者の洩らす膿汁の中にある一種の黴菌の爲めに發するもので此膿によりて他に傳染し段々と擴がり決して偶然に特發するものではない。不注意の爲めに之に感染すると其翌日若しくは翌々日になつて尿道に一種の痒覺を感し或は放尿する時に微痛を覺える樣になりて段々濃き膿が出る樣になります而して此膿は通常四五日の後には追々稀薄になりますが決して治したといふ理ではなく甚しき時には膿の中に血液が混じ所謂血膿が出て非常に劇しい痛みを惹き起こすとがあります。此初期の時に嚴重の處置をとれば餘毒も割合少ないが病氣が病氣故兎角姑息に流れ素人考へに砂糖などを舐めて一時痛を忍むでおる爲めに慢性に陷り終に種々の障害を起こす樣になるのが十中の八九です。放置しおく時には追々上方に進み膀胱加答兒を起こし又男子なれば副睪丸炎を起こし頗ぶる劇烈の疼痛の爲めに歩行はおろか起き上る事も六ケしき程に立ち至る事もありますこうなると終には睪丸も犯かされもしも兩側であると生殖の作用を失ひ不娠の原因となります又一

二年又は數年の後になりて尿道が狹くなり小便の通じない樣な次義となり非常な惱みをせねばならない猶害は之れのみならず心臟病劇しき關節炎を起こし其他一般に知らるゝ如く膿汁が指頭等につき誤って眼に入る時には實に恐るべき眼病を起し數日中に失明の不幸に陷る樣になります。若しも婦人であると其害は一層甚だしく尿道のみならず子宮卵巢等全生殖器が種々の病氣を發し然かも容易に根治するとが困難な爲めに遂に愛兒を擧げるとが出來ぬ不幸に陷るとが決して少なくはありませぬ。

此の如く淋病其ものよりは餘毒が頗る恐るべきものでありますから淋病と心付かば一時も躊躇せず早速醫師の診察を乞ひ嚴重の治療を施こし初期に根治しなければなりませぬ。今治療中の注意すべき事をかいつまむで申上ると

(1)病中患部は脫脂綿又はガーゼにて包み膿の他に散ぬ樣注意すべし。

(2)局部に觸れた手は一に石炭酸などにて消毒し手を拭ふ手拭と顏面に用ゐるものとは必らず別々にすべし。

(3)膿汁のつきたる汚物は熱湯を注ぎ後洗濯すべし。

(4)初期には充分の安靜を守り運動は悉く宜しからず。

(5)凡て酒類ラムネ類は嚴禁すべし。

(6)鹽辛き食物及胡椒七味唐辛子抔の香料は避け成可淡泊にして水分多き飲食料を撰ぶべし。

(7)初期には頻繁の入浴は宜しからず。

(8)病中は謹愼に身を守るべし。

以上の事項を悉く注意せられ病の輕重と時期とにより適當の醫療を受けなば三四週にて全治すべきも慢性となる時は數年若しくは一生に亘り過勞又は過度の飲酒等の際再發を免かれませぬ故呉々も注意して治療せられねばなりませぬ。其療法は其容躰によりて一樣でありませぬから茲には申上兼ねるが要するに直接に良醫の治療を仰るより道はありませぬ。

質問者　茨城　一　會員

同　前略すさて本年十四五歳の女子にして每晩寢小便をいたし誠に身の修業にも出し難く困入候間何卒治療方法有之候へば御教示下さ

れ度願上候

答、夜間に遺溺するのは頑固の悪習で既に物心のつきし小供にも往々あるとがあります、時としては至く熟睡中で心付かないものもありますが多くは一種の夢想中に自身か厠にある如き心地で洩尿し中途に目覺めるのが多く、之れは神經質の小供に多く必竟膀胱の普通よりは過敏な爲めに耐へるとが出來ない爲めだと申します。併し時としては腸の中に寄生した蛔蟲といふ蟲の刺戟又は膀胱中に石の生じた刺戟其外肛門の附近外陰部に病氣がありて源因となるがありますから一應は醫師の診察を受けらるゝ必要があります。扨て此習慣を矯めるには種々の内服藥電氣療法などもあり又特別の源因のある時には之れを去るのは勿論ですが先づ第一には其習慣を改良する樣に心を落ち付けて敬戒するとが專一です其他寢に就く前には可成水分を取らせない樣に注意し寢時には臀部を少し高くし余り夜具など重くさせない方がよい斯の如く追々習慣を破ると多くは十六七になると餘程のものでも治るといふ事です、夜分心地よく熟睡してゐる小供を時々呼び起こすのは只可憐想なのみで左程の効はありませむ。

質問者　茨城　支會々員

問　私儀四五歳の頃（ヒカン病）に罹り病氣全快と共に近眼に相成以後益々高り當時は五度中の眼鏡を用ゐ候へ共何分思はしからず候右の病氣は治療方法有之候や又宜しき藥品有之候へば御教示下され度願上候

答　近眼も世間ありふれた病氣で時々質問がありますから序でに一言致しておきましよふ一概に近眼と申しましても色々の種類がありまして一生涯只輕き近眼で止まるものと、時々度の進むものと猶一つには追々と度の進行して行くものとの大凡三通があります。近視眼になると遠望は不分明となつて明月を見ても朧月の樣に見えるのは申す迄もないが輕度の近眼にては近き所のものは正視の人よりも反て明細で細字を讀み微細の彫刻などは寧ろ得意のものです所ろが高度の近視となると視力も弱くなり又容易に疲勞し長く業を續ける事が出來ない其他涙が流れ出

て、物を視るに眩く、物を視つあるも中心の所が暗くなり、時々眼の前に火花がちらつくなと色々のよが起こります之れは眼の底の網膜といふ大切な膜に故障が起こりし爲めて最も不幸なのは卒然失明するとがあります。夫故に輕度のものは左程恐るべきでもありませぬが高度のものになると不幸に失明の不幸に陷るとがありますから平常の注意が肝要であります。併しながら一旦近眼となつた以上は不幸にして之を全治せしむる方法はありませぬ。只適當の眼鏡を用ゐて其弊害を去つて滿足するより致方はない而して此適當の眼鏡を用ゐるのは同時に其進行するを防く豫防となるのです。夫故に眼鏡は必らず專門醫の特實の精撰を乞ひ決して自から眼舗につきて求むる如き輕卒の撰擇をしてはなりませぬ。

眼鏡を用ゐるのは輕度の時には遠望の時のみて近き所のものを見るには無益てありますが强度となると遠望用のものと近用のものとの二様の眼鏡を用ゐねはなりませぬ、

以上の如く適當の眼鏡を用ゐるのみならず近眼の進行中には夜業を執るのはよろしくない特更執業中に眼邊に疼痛を起し又は疲勞する時には直ちに休まなければなりませぬ。

其他衛生的豫防となるべき箇條を擧げますれば

(1) 仕事は十分明るき所にてなし決して窓光の不足の所、薄暮、燈火の微なる所にて讀書筆記などすべからず、又日光燈火共に机の左方よりとるべし。

(2) 執務中躰の姿勢は正しくし頭を垂れ脊を踞め眼と物とを接近せしむるは極めて宜しからず。

(3) 細字の書籍は夜間に讀むべからず亦床の中にて小說など仰臥の位置にて讀むは嚴禁すべき事なり。

又時々眼を遠方に轉じ休息せしむべし。

●子宮病に關する越後一婦人への答　專門醫の御診察にては子宮躰の異常の屈曲と子宮口の狹窄とを擔はるゝとの事なれば從ひて分泌物の排出し方もあしく勢ひ汚物も澁滯する事となり月經時の困難も多かること思はれます又かくては平常にても分泌物滯り

血行も順を失ひ容易に病氣にかゝりやすくなり居る矢先月經時等の不行屆から知らさる間に内膜炎を起こされし事と思はれます（月經時の注意は百五十六號應急處置欄流血の部にあり）其他御配偶から傳染する事もありますから御注意せむければなりませぬ。

頭痛眩暈、逆上などの起られさるのは頗る御幸福なとて兎角此病氣は身體所々に故障が起りやすゐ又神經質となりますから倦まず怠らず醫師の治療を受けらるゝ事が肝要です又今に姙娠せられないのも内膜炎の爲めか又は子宮位置の故障に關係する事と思はれます。委しき治療法等は本誌百五十一號質問欄にありますから御覧なさい。

問、妾事氣候の變更致し候節には齒痛誠に堪へ難く加之奥齒の缺け落ち其殘留の部分皆齒根浮き上り飮食の場合には非常の苦痛を感じ困却致し候が右治療の良法有之候へば御教示被下度懇願致し候也

質問者　新潟市　一　會　員

答、齒は通常人の思ふよりは人體にとりては大切なもので齒列の正しき光澤のあるのは顏貌の上に大に關係し、又發音にも關係し特に食物を嚼み碎きて容易に消化し得るものとなすのは尤も大切な作用です從ひて此齒を完全に保もつ養生法は時々やかましく說かるゝ方がありますが兎角養生としては行ひ難きものです。

素と齲齒の出來るのは食後の齒の掃除のあしき爲め齒の間などや又は表面の凸凹の部分に食片が殘こり居り其腐敗する爲めに齒の表面を冠の如く被ふ法瑯質と申す光澤ある硬固き齒にとりて尤も大切な部分が段々と破壞され裂目が出來ます一旦此被部が失はれた以上は其下の象牙質は跪きものですから追々に腐蝕されて大きな腔洞となり齒の中心の齒髓と申す神經のきておる近くに進みますと御承知の齒の痛みが起ります此痛みは中々はげしいもので遂には顏面一體より頭部に及ぶ事かあるこれが大體齲齒の出來る順序なのです。

此痛みを起すのは寒き食物又は熱き物が齒髓の神經を刺戟する時又は食物の腐敗物の刺戟によるのです故に齲齒の生じたるときは一日數回特に食後に微溫

湯にて含嗽し食片の殘らぬ樣に清潔にするは申す迄もなき事ですが腔の大きくならぬ內に早やく齒醫につき塡充を請ひ一方には痛の生ぜぬ樣他方には腐蝕の進まぬ樣に心掛られねばなりません。

兎角齒の痛む時は一と思ひに拔き去らるゝ方がありますがこれは痛みの原因を根本から去るのですから特効のあることは無論ですが之は甚だよろしくないかくては齒列を亂し齒の肉がすき食物ははさまり勢ひ入齒をせねばならぬ樣になりますそこで入齒の技術の近頃進歩して居りますが兎角義齒ですから如何に精巧でも養子の實子に及ぶ道理はありませんから惡しき齒でも猥りに拔くのは後悔のもとです併し愼充するに致しても餘り大なる腔となつて後にては齒質は段々脆くなりまして少し固きものを少しかみても碎ける程になりません加之ならず其砂片の殘りし爲めに時々痛みを起し反ツて害になる塲合には最後の手段として拔き去るより致し方がありませむ。

又齒の痛みは强ち前に申上げし如く齲齒のみに限りません齒に腔はなくても齒の根に病氣がありて其周圍が腫れ上り遂には化膿し其膿が外に漏れた塲合には追々と痛みが去ることがあります。

よく齒齦にトンネルが出來て之れより絕へず膿が出て之れが滯ると痛みを起す事のあるのは此爲てす。夫れ故かゝる塲合には齒根を切開して病因を去り猶治せされば止むを得ず拔き去らねばなりませぬ若し之を放置する時は其病氣が段々深部に入り骨につたはり頰の肉に及ぼし終には顏の外に破れ之より膿が出る樣になり生れつかぬ顏に創をこしらへることゝなりますから適當の手當の時日を失はれない樣にせねばなりませぬ途上もし頰邊の凹みて紫色又は赤くなり其中央より膿の生ずるのは皆此治療を怠られた不幸の人てす。

御質問の御樣子にては恐らく齒根の骨膜炎に惱まれる事と思はれます又殘る事がありては根治しませぬから良き齒醫に診斷を乞ひ一部は拔齒せらるゝが良策と思ひます。

質問者　埼玉　會員　某

問　幼時心臟病に罹りし女子平常の攝生法は如何致し候はゞ宜敷候や遺傳病に候や大概夭死致し候や健全なる小兒出生致すべく候や睡眠時間は短くとも害なく候や田舍と都いづれが身体に適ひ候っ右御尋申上候早々

答、幼時に心臟病に罹られたとて必らずしも一生不治の餘毒を殘すものとは限りません故に診察の上ならでは委しき御答へも出來難いが決して夭死するものとは限らず又遺傳病でもありませぬから御安心なさいませ併し幼時の心臟病は多少心臟の瓣膜に障害が殘りますからポンプの瓣が破損したと一樣で血の循環に故障が起り一部に血の滯る所ができる樣になるけれども身の幸のことに人間の躰は自然に破損を修繕すると云ふ作らきがありますから其人の榮養がよく心臟の筋肉が丈夫になれる力がある時には心臟は通常より力が強くなつて心機の平衡を保つ樣になります此調子の歪はぬ間は通常と異りませぬがかゝる心臟に欠點がある時には僅かの事にも血行に障害を起しやすいてす。

夫故心臟病に罹りし人は平常注意して血の循環を早むる樣な動作は避けねばなりませぬ即ち熱き湯に入る事、長湯する事、過劇の勞働、心配することなどはよろしくない其他呼吸器の病氣氣管支加答兒等にかゝり安いものですから風邪に犯されぬ樣注意せねばなりませぬ併し平常適當の運動によりて心力を鼓舞することは極めて必要です只安座靜眠を事とせよと申すのではありませんから此邊は特に心して適當に運動し夜は充分身躰を休められ可成躰の力を盛にし調子の亂れぬ樣に注意せねばなりませぬ万一僅かの運動にても心臟の鼓動がはげしくなり呼吸は頻繁て困難となり爪などは紫色を帶び顏、手、甲、などに水腫か來り尿の量か減少した場合には心臟の力が衰弱し血液運行の平衡を失ふた證據でありますから此時には全く安臥靜養を旨とせられ決して身躰を動かす事は出來ませぬよろしく良醫の命令に從ひ靜養せられねばなりませぬ。

問　妾は十七歳前後より月經有之候へども月經時更に一定致さず又月二回或は三回位これあり候へども結婚致し候ても別に健康に害なきや尚ほ是れが療法あらば御教へ下され度願上候

質問者　武州八王子町　一會員

答、月經不順なのは子宮に差し障はりのある故なればよろしく專門醫の診察を受け充分に治療ありたし結婚は充分平穩の上なれば此上なき事なれども差して害をする事もなからむ

質問者　廣島　賛成員

問　一、「炭酸グワヤコール」は肺結核豫防として腺病質肺格を有するもの若しくは他病後大に衰弱し呼吸音の弱はりたるものに用ゐて効あるや否や

二、肺結核は其初期に於ては根治することを得るか若し得とすれば其治療衞生法如何

三、肺病は如何なる程度に進みたる後他に傳染するか即ち傳染に要する病菌は病者の呼氣中にあるか

四、皮膚を强壯にするには如何なる方法を尤も好良とするか最新說を問ふ

五、人類の腦は適當の食物適當の運動を行へば一日何時間の使用(讀書の如き使用)に堪へ得るものなるか

答一、二、　炭酸グァヤコール、ゲレオソートは身質に應じ適當の量を用ゐれば良く消化機能を亢進せしめ又從ひて身躰の營養を旺盛にし病源に向ひての抵抗力を增す故に肺病、線病などに用ひて有効なのです肺結核としいへば凡て不治の痼疾の如く考ふれどもこれは大きな誤りで勿論病勢の進みし以上は論外であるが初期の場合に淸淨の空氣中に呼吸し身躰の營養を損せず益々躰質を强健にするを務め其症狀に應じ適當の療法を過またざる場合には豫想外に治癒する事は明らかな事實で解剖上老人の屍躰につき結核の治癒したる跟跡を認むることの多いのは其確證てす其治法等は各症狀に應じての事なれば此紙上に應答の限りにありませぬ

三、病菌は患者の痰中及び咳嗽時には呼氣中の泡沫中に混じます

四、皮膚を强壯にするは第一皮膚の表面に日々分泌する外部より附着する塵埃を去り皮膚の作用を害せざる樣にし每々沐浴せではなりませぬ又皮膚を成るべく外部の刺戟に對し抵抗力を增進せしむる樣即ち外氣の寒溫に應じてよく伸縮し躰溫の發散を調理

し得る力を増さしむる爲めには余り重着はよろしからず寧ろ薄着の方がよくあります

五、人の腦と云ふものは各 天禀により差異もあり又興味を有する事に用ゐると然らざるとにより差異あるも直ちに其一事に熱中したる場合は三時間位よりは續かざるべし然らざれば必らず容易に恢復せざる疲勞を覺ゆべし夫れ故執務中一時間に十分間位つゝは靜かに休むこと必要なり

古より一晝夜を三分し八時間は働き八時間は休み八時間は寝ぬる割合位なればよろしからん

質問者　安藝　一　會　員

問一、人は食前食後何時間を經れば勉學しても腦及消化に害なきものに候か

二、人の腦は一日何時間勉學に堪ふべきものに候や（二十才以下三十才以下）（三十才以上五十才以下）（五十才以上）（六十才以下）

三、冷水摩擦と乾燥摩擦とは衛生上の價値何れか勝り居り候や

四、濕疹の有効なる治療法は如何

五、深呼吸の衛生上の價値は如何なるものに候や

答一、學問の勉强なり或は實地の研究に當り腦力を費すときは從ひて之れが新陳代謝を司どる血液の循環にも關すべく又胃に食物の入る時は食物消化の爲めに胃部に集注すべしかゝれば食後直ちに腦力を用ゐることは自から消化を害し有害の理なり食物の種類により多少の差異あるも二三時間にして胃より腸に移行せるものなれば少なくも一時間は腦の使用を休め消化を　恣にすること必要なりされば人々の身躰强弱の度食物の種類勉學の難易により自から差異なるべければ食前食後何時間などゝ數學的に申すべきものにあらず

二、通常七八時間なり

三、皮膚を强固にし精神を皷舞し從ひて全身の强壯を將來するには冷水摩擦を有効とす

四、濕疹の治療は病狀難易により一定ならず其治療は時期に應ずる事故專門家にても困難とする所なれば應答致し難し

●御斷り　御質問は續々蝟集致し居り本號に登載の餘白なきを以て餘は次號を待たれよ

大日本婦人衞生會記事

●明治三十六年一月新年會

一月十日第二土曜日午後一時より麹町虎の門内東京女學館講堂に於て開く當日は婦人共立育兒會役員にも參會せられ相互新年の禮を交換し當日は衞生上の講演を止め定時に至るや直ちに餘興を開始し總裁宮殿下にも御臨場あらせられ講談師松林伯鶴には堀部武庸の妻お順貞烈談及滑稽談挑山御殿大閤御歌合等を演じ總裁殿下には御用御都合の爲め二時半頃御歸館あらせられ講談終りてよりは別室設けの席に於て茶菓の接待あり快談に時を移るを覺えず四時頃全く散會せしが鍋島會長にも出席せられ其他役員には（出席順）濱尾副會長、幹事高木かう子、評議員南部限子、仝高橋孝子、幹事羽田三緒子、評議員岡山とし子、幹事三浦敬子、評議員宮本樂子、幹事岡田德子、仝鳩山春子、幹事穗積歌子等にして會員にも多數參會せられ東京女學館生徒も加はりて盛會なりき

●新年會費用中へ寄附

一金參圓　濱尾作子
一紅茶及角砂糖　高木かう子

●本會の義贈金　今やペスト病は本所區内に發生し上下胸々たる折柄是れが看護に從事せる看護婦の勤勞は實に一方ならぬとなれば聊か其勞苦を慰め同情を表せんとの說は新年會役員集合の席上に起り直ちに慰勞金參拾圓支出の事を可決し慰勞金に添ふる文章起草のことは幹事岡田德子擔當せられ病院訪問の事は當日出席せられたる本所病院長の姉なる宮本樂子に依托し翌日左の書狀を添へ義贈せり

拜啓、落葉霜に埋れて、朔の風身に染み渡る折柄、諸嬢益御健康、人道の爲め御勤務の段、大賀に堪す候。想ひ起せば、昨年夏の頃、横濱市に於てペスト病の發現せし時、朝野を擧げて、之を防ぐに熱中し、爲めに甚だしき蔓延を見ず、遂に之を撲滅せしめ候ひき、萬民心を安んして、未だ幾何ならざるに、今や輦轂の下、本所區に於てペスト患者を發生し、更

延の國候を見るに至り候ふ。上も下も擧ッて膽を寒からしめし事、ことわりと申すべし。」

今、諸孃は一視同仁の涙を以て、是等可憐の患者に接し大勇猛心を以て、畏るべき惡魔に抗せらるゝ其情、其勇は、彼の義軍に投じて、命を鴻毛の輕きに比しけん忠士に劣らず、其功も亦、彼等に下らずと欣慕致所に候。」

抑も、ペスト病如きは、國民を迫害する大敵にして、國と看護婦とは戰鬪に於ける將卒の如きものにや候はん。諸孃は實に我軍の一隊なり。我等進んで戰鬪員に加はることは能はず候へども。切めては應援の位置に立ち、滿腔の同情を表し度と存じ、別紙金額三十圓呈上仕候に就き、御受納被下度、些少の金額、迚も御役にはたゝじと思へど、我等の微意と思召被下度候。」

諸孃には、御職務上、ペスト病看護の用意などは、篤と知了せらるゝ所ならんとは、存候へ共、會には念を入れゝ申談の候へば、充分御注意ありて御勤勞の程、我等の御願申所に候、加ふるに、時下嚴寒の候く感冒も引き玉はぬ樣にと、祈申すべく候。いかで、寇軍の亡へて、盡きて、諸孃と凱歌を謠はん日の待ち遠くも思ふかな。思ひ胸に充ちて筆は從はず。唯々諸孃の御健康を祈る事、此の如くに候あなかしこや。

明治三十六年一月　日　大日本婦人衛生會

會長　鍋島榮子

本所病院看護婦御中

●横田醫學士の私宅訪問　ペスト病看護婦の爲には前項の如く義贈金をなせしが又去る十三日には濱尾副會長の命を帶び本會事務所員は總代として横田學士の私宅を訪問せしが横田夫人には事務所員に語らるゝ樣「今日の知らせにては愈々眞性に感染のよし是れも公務の爲め致し方も御座いませぬと申されしが夫人には御出産前の御模樣故一しほ御心痛の御事と同情の涙に咽びたり其後數日ならざるに横田學士は全く公務の爲めに逝けり嗚呼實に痛ましき限りなりといふべし此報に接するや本會事務所員は又々横田學士の私宅に吊詞を述べ葬儀當日は生花壹對を備へて會葬せり

●年賀狀の御禮　會員諸姉贊成員には本會の隆盛を祝され早々年賀狀を投寄せられ多謝する處に候芳名掲載の筈なりしも餘日なきを以て只投咏のみ左に掲ぐ

宮中御歌　山梨　中澤平齋

あら海の磯うちかへしたつ波も
　音しづかなりとしの初めは

仝じく　山梨　志村確齋

駿河なる田籠の浦はの浪間より
　としあら玉乃光りほの見ゆ

仝じく　山梨　中澤久野子

田鶴うたひよろつせ龜もなどるらん
　四つの海原てらすはつ日に　岐阜　加野とも子

四方の海波靜に初日影
　うつる鏡の御代のかしこさ　肥前　立野階子

大御代を祝ふ初日のうれしさは
　都もみなもかはらざりける

くすり酒くみかはしつゝ嬉しさは
　初日のとけきけふにそありける

歳末偶詠

夢の間に行く年浪を過したる
身のおこたりも思ひしられて

肥前　立野隣子

●新潟支部新年會報告

新年會　一月十一日(第二日曜日)新潟市西堀通り長善寺に於て新年會を開く當日午前十一時先づ君か代の國歌を奏して會員一同起立合唱し支部長柏田すま子の開會の挨拶あり次に幹事梅木しづ子は本會總裁宮殿下の御令詞を捧讀す此間會衆一同起立謹聽次に講師高橋辰五郎氏は運動の事に就き簡單なる談話あり右終りて茶菓折詰を供し午後は餘興として講談能狂言等あり後ち會員は音樂に合せて雷落しの遊戯をなし是れが撰に當りしものは場の中央に設けたる兎の繪に向て眼を被ふて其の耳目をつけしに上下處を異にして笑聲堂に滿ちぬ次て例年の通り福引ありて老人は玩具を得幼兒は家具を受け興味の盡くるを覺へさりしか時既に午後四時なるに依り副部長田中ぬい子の挨拶を以て會を閉せり此の日會するもの九十有四名なりき

●山形支會(十二月例會)

十二月十三日第二土曜日午後一時より山形支會の例會を女子師範學校内に開く會員及び學生の傍聽者二百餘名來會左の諸氏の講演あり四時閉會せり

救急療法　講師　吉村　春柳君
インフルエンザに就て　仝　北島小太郎君
習慣に就て　山形縣女子師範學校長　津田　元德君

今回安村副會長歸縣の爲め辭任せられたるを以て其後任として特別會員岩本令夫人を推擧し承諾を得たりといふ

横井玉子女史逝く

横井玉子女史には本會料理法の欄を擔任せられ熱心に寄稿せられしが舊臘より胃癌の爲めに腦ませられ本年一月四日午后七時十分遂に遠逝せられたり女史か生前に盡されし効勞は實に敬慕に堪へざるものあり舊臘本會事務所員が女史の病ひを訪ひたること及其容態等は餘白なきを以て次號に於て詳しく報告する處あるべし

本會は謹みて哀悼の意を表す

●本會入會者

○伊豆　有川仙子紹介

●伊豆國熱海町熱海九百五十七　通常會員　石渡まち子
●仝國仝町坂町　通常會員　和泉なか子

○日本橋　安達みつ子紹介

●日本橋區濱町三丁目六番地　通常會員　磐山千代子

○淺草　靑木すゞ子紹介

●淺草區鳥越町十三番地　通常會員　林てる子

○日本橋　後藤はつ子紹介

●日本橋區吳服町一番地　通常會員　清水なを子

○事務所申込

●兵庫縣津名郡郡家村四百廿七番屋敷　通常會員　森海喜佐子
●兵庫縣揖保郡龍野町ノ内日山村　通常會員　中原百合子
●甲府市八日町二丁目　通常會員　清水ますゑ子
●兵庫縣川邊郡尼崎町ノ内別所町　通常會員　鈴木壽子
●臺灣台南城内續後街十一番戶　通常會員　島山政子
●本鄕區藥坂町八十五番地　通常會員　中島たか子
●新潟縣刈羽郡柏崎下新田町　通常會員　宮川芳子
●日本橋區久松町二十九番地　通常會員　近藤いく子
●陸中稗貫郡大迫町上町六四　通常會員　村田ふさ子
●福岡市行ノ町三十六　贊成員　小笹文藏君

○本會特別會員加藤常子紹介

●鳥取縣米子町鐵道作業局官舍　通常會員　三上寧子

○八王子　山田稲治子紹介

●南多摩郡八王子町八日町一〇二　通常會員　桑原たに子

○臺灣　松住臨太郎君紹介

●臺北城内京門街乙第门號官舍八室　通常會員　田中しげ子
●台北城内東門街乙第四號官舍八室　通常會員　宮崎孝子

○赤坂　蒲原和歌子紹介

●四谷區大番町三十番地　通常會員　三浦德子
●麴町區上手三番町五番地　通常會員　原澤四津子

○臺灣　大坪庭子紹介

●臺灣臺南市關帝廟街　通常會員　山崎きく子

○本會特別會員佐藤歌子紹介

●京橋區新富町四丁目七番地　特別會員　大谷作子

○本鄕　木村いわ子紹介

●本鄕區春木町三丁目四十番地　通常會員　成川その子

○東京　高木むら子紹介

●下谷區仲徒町三丁目七十五番地　通常會員　松岡道子

○神田　牧野ふみ子紹介

●宮城縣本吉郡鹿折村浪板二五四　通常會員　小野寺ふかの子

○神田　柳川こま子紹介

●神田區雉子町　通常會員　寺内ます子

○神田　大關ちか子紹介

●神田錦町三ノ二、大關方　通常會員　朝倉ふみ子
●仝所　通常會員　瀨上かず子
●仝所　通常會員　今井稻子
●仝所　通常會員　野際てう子
●仝所　通常會員　松尾しつ子
●仝所　通常會員　鈴木うの子
●仝所　通常會員　北原とし子

○牛込　菅原正野子紹介

●牛込區白銀町三十番地　通常會員　早川待子

○下谷　藤枝ふじ子紹介
●本郷區湯生町二番地は三十四號　通常會員　藤田　和子
○神戸　前川照子紹介
●攝津國有馬郡鹽瀬村ノ内名鹽村　通常會員　各務　愛子
○麹町　櫻山藝子紹介
●京橋南傳馬町一丁目一番地　通常會員　柳橋　とや子
○大坂　岡田三壽子紹介
●松山市南京町　通常會員　俊野　いわ子

◉新潟支會入會

○副會長田中ぬい子紹介
●學校町　特別會員　鏡　たけ子
●寄居町　通常會員　荻野　さい子
○幹事中村しげ子紹介
●本町通り　通常會員　中澤　とし子
○評議員加藤こう子紹介
●大畑通　特別會員　新開　加賀子
○幹事梅木しづ子紹介
●旭町通　通常會員　中村　きん子
○幹事河上ふさ子紹介
●下大川前　通常會員　工藤　とく子
○谷みつ子紹介
●白山浦　通常會員　木村　たか子
○幹事梅木しづ子紹介
●醫學町　通常會員　鈴木　たか子
○幹事和田くに子紹介
●學校町　特別會員　ミセス、カルチス

◉茨城支會入會

○幹事小田むめの子紹介
●水戸市上市鐵砲町廿一青木氏方　通常會員　高橋　きよ子
●仝市藤澤小路十七大井氏方　通常會員　横山　ひで子
●仝市神崎館正文氏方　通常會員　藤田　ふく子

◉高崎支會入會

○横井特別賛成員紹介
●高崎市山田町　通常會員　山梨　和歌子

◉山形支會入會

○幹事沖野りう子紹介
●山形支會　特別會員　植村　きよ子
○山形支會講師北島醫學士紹介
●山形支會　特別會員　岩本　しげ子
●仝　通常會員　西谷　ひで子
●仝　通常會員　高橋　やよ子
●仝　通常會員　遠山　もと子
●仝　通常會員　細谷　わか子
●仝　通常會員　三橋　みつ子
○幹事中原きえ子紹介
●山形支會　通常會員　青山　きち子
○黒柳きぬ子紹介
●山形支會　通常會員　高宮　あと子
●山形支會　通常會員　衣川　さた子

◉會員種類變更

●京橋　舊通常會員　特別會員　秋田　はる子

●高崎支會新年會

仝支會にては本月十七日新年會を開き餘興等もありて盛會なりしと未だ詳細の報に接せざるを以て次號に於て詳しく報告することゝなしぬ

●高崎支會の爲め斡旋の勞少からざりし秋田聰太郎氏には今回特別贊成員となられたり

●高崎支會入會者

○特贊秋田聰太郎君紹介

●高崎市八島町五十番地　通常會員　伊藤　富士子
●仝田町三十四番地　通常會員　篠崎　きく子
●仝田町十番地　通常會員　國峯　てふ子

○特贊土谷金次君紹介

●高崎市柳川町百二十八　通常會員　鈴木　久良子
●仝柳川町百四十八　通常會員　栗本　つな子
●仝九蔵町　贊成員　田部井巳之八君

○會員大山うら子紹介

●高崎市四ツ屋町十四　通常會員　中村　さだ子
●仝四ツ屋町三番地　通常會員　後藤　けう子
●仝田町五十九番地　通常會員　國峯　しか子

○評議員馬渡なか子紹介

仝柳川町　通常會員　中川　けい子

○幹事清水かね子紹介

●仝歌川町　通常會員　清水　梅子

○會員本多美佐子紹介

仝柳川町百四十　通常會員　坂部　米子

○評議員横井昇子紹介

●仝堰代町一番地　通常會員　中島　よね子
●仝瀧見町八番地　通常會員　内田　ゆく子
●仝檜物町八番地　通常會員　田口かくの子

●會　告

一寄附金壹圓　臺灣　贊成員　松尾宗幽君

●各支會其他入會者の報告續々有之候へども發行時期後れ候に付次號に讓りぬ

轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

小石川區林町四十一番地ヘ	宮崎よし子
廣島縣吳港和庄町東本町五百廿四、次十八	山下きわ子
芝公園十五號地十一ヘ	大澤かめ子
日本橋區小傳馬町一ノ三ヘ	岸田とり子
小石川區水道端二ノ四十ヘ	渡邊れん子
下谷區茅町一ノ七根岸方	石久保美伊子
大坂北區鳴尾町七十一番地ヘ	小野文子
小石川區指ヶ谷町二番地大里氏方ヘ	諏訪なみ子
福岡市立福岡高等女學校ヘ	時岡久米子
香川縣高松市三番町ヘ	高木操子
大坂森の宮西ノ百五ヘ	野口㬎子
赤坂區榎町十六番地ヘ	竹崎郷子
札幌區北三東三ノ一ヘ	若林かめ子
名古屋東撞木町二丁目一番地ヘ	三宅鶴子
麻布區本村町百四十二番地ヘ	岸美與子
京橋築地明石町卅一番地ヘ	佐藤歌子
美濃國大垣町字久瀬川五十番戸ヘ	野村三代子
臺南土地調査局出張所ヘ	四倉ゆう子
麹町區仲六番町十一番地ヘ	小山田から子
四谷區簞笥町三十三番地ヘ	戸川操子
小石川久堅町七番地ヘ	大河内完子
赤坂區青山南二丁目六十六番地ヘ	小松いさ子
本所區外手町八十六番地ヘ	宇數かつ子
麹町區紀尾井町三番地ヘ	吉野伸子
芝區神谷町十八番地齋藤氏方ヘ	岩船手子
京橋區西豐多摩川岸二十號ヘ（伊藤氏方）	岡富子
麹町區飯田町六丁目十七番地ヘ	横山壽子
千葉縣佐原町佐原內科病院內ヘ	竹中成憲君
仝所	竹中もと子
名古屋市舍人町二十七番地ヘ	大島織兄子
芝區二本榎一ノ三十五ヘ	鹽濱こと子
本郷區駒込曙町十六番地ヘ	馬淵きく子
神戸市加納町二丁目五番邸ヘ	三田朝子
神奈川縣三浦郡浦郷村袋戸ヘ	富岡かなろ子
赤坂區青山南町一丁目三十六番地ヘ	杉江まつ子
牛込區拂方町十六番地ヘ	關原かめゐ子
滋賀縣大津市下百石町六十六番地ヘ	梶本ちせ子
廣島市水主町百十四番屋敷ヘ	菅ゆき子
丹後國東舞鶴餘部官舍丙第四號ヘ	芳賀きた子
山口縣吉敷郡山口町字今道千六百四十七ヘ	諏訪幾久子
臺灣斗六廳尖山堡萬興土地調査局派出所ヘ	飯塚けい子
牛込區市谷山伏町十六番地ヘ	溝淵駒衞子
京橋采女町一番地ヘ	松岡雪子



私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を研き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆[illegible]婦人のもつはら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相次て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども大ゝ衛生の事に至りては更に注意を慮かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會と云ひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講話を[illegible]記して冊子となし編輯して會員に分ち聊か同胞の爲めに益するあらんとす玆に本會の趣旨其他の概略を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰がんことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿[illegible]年十一月改正）

[illegible]

本會雜誌を以て報告すべし
第廿一條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし郵券送付は一錢切手
第廿三條 會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所在の郵便局(牛込局宛)振出しあるべし
第廿四條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし
第廿五條 本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所 東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

總裁 小松若宮依仁親王妃 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 濱尾作子

(いろは順)

幹事 鳩山春子
仝 羽川三緒子
仝 穗積歌子
仝 岡田德子
仝 高木かう子
仝 松平芳子
仝 三浦教子

評議員 石川さだ子
仝 濱田捨子
仝 仁禮寛子
仝 四[illegible]升子
仝 男爵夫人 四[illegible]部子
仝 德富靜子
仝 緒方悦子
仝 男爵夫人 川口直子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 吉武輝枝子
仝 子爵夫人 田中伊代子
仝 高橋孝子
仝 丹波良子
仝 男爵夫人 南部隈子
仝 中湖芳子
仝 岡山との子
仝 山本多穗子
仝 子爵夫人 松前藤子
仝 子爵夫人 松井正子
仝 馬渡玉子
仝 伯爵夫人 松平充子
仝 子爵夫人 秋元宗子
仝 三宅藤子
仝 宮木樂子
仝 宮下咲子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別賛成員

(●は本會に於て講演せられし諸氏)

●入澤達吉君 ●飯島魁君 ●伊澤信平君 ●色川圀士君 ●伊東祐彦君 ●飯盛挺造君 ●伊藤隼三君 ●石川千代松君 ●岩井禎造君 池原康造君 池山[illegible]君 ●濱尾新君 濱田玄達君 遠山椿吉君 荻野[illegible]四郎君 ●芳賀榮次郎君 ●長谷川泰君 長谷川[illegible]君 小原[illegible]之君 ●林[illegible]雄君

●佐藤達次郎君 ●緒方正規君 ●堀内文次郎君 ●土肥[illegible]三郎君 ●岡田和一郎君 ●入澤謙二君 大西秀治君 ●大澤岳太郎君 ●恩田重信君 若杉喜三郎君 ●加藤弘之君 ●加藤照麿君 ●賀古鶴所君 ●河本重次郎君 ●片山國嘉君 川上雅重君 ●金杉英五郎君 淺原光興君 ●高橋順太郎君 ●高山紀齋君 ●高木兼寛君 ●高木[illegible]君 田代義德君 ●田代[illegible]君 高田[illegible]君 竹中成憲君 高橋[illegible]君 ●高橋[illegible]君 丹波敬三君 石原[illegible]君 田原[illegible]君 ●坪井次郎君 ●久保猪之吉君 米山[illegible]郎君

星野篠光君 櫻井忠國君 辻新次君 ●坪井正五郎君 ●[illegible]解吉君 南部精男君 ●長井長義君 長濱[illegible]君 ●中濱東一郎君 中村勇三郎君 村松[illegible]君 ●隈川宗雄君 ●栗本東明君 ●山田鐵藏君 馬屋原彰君 ●山根正次君 山川[illegible]君 ●丸茂文良君 ●丸山四郎君 松山棟庵君 ●小柴[illegible]君 ●小西信八君 小泉[illegible]君 吉川榮[illegible]君 布施現之助君 ●後藤新平君 ●エ、ベルツ君 平野勇[illegible]君 ●寺田勇吉君 秋元興朝君 ●足立寛君 ●新井[illegible]君 阿部四郎君 十[illegible]谷[illegible]君

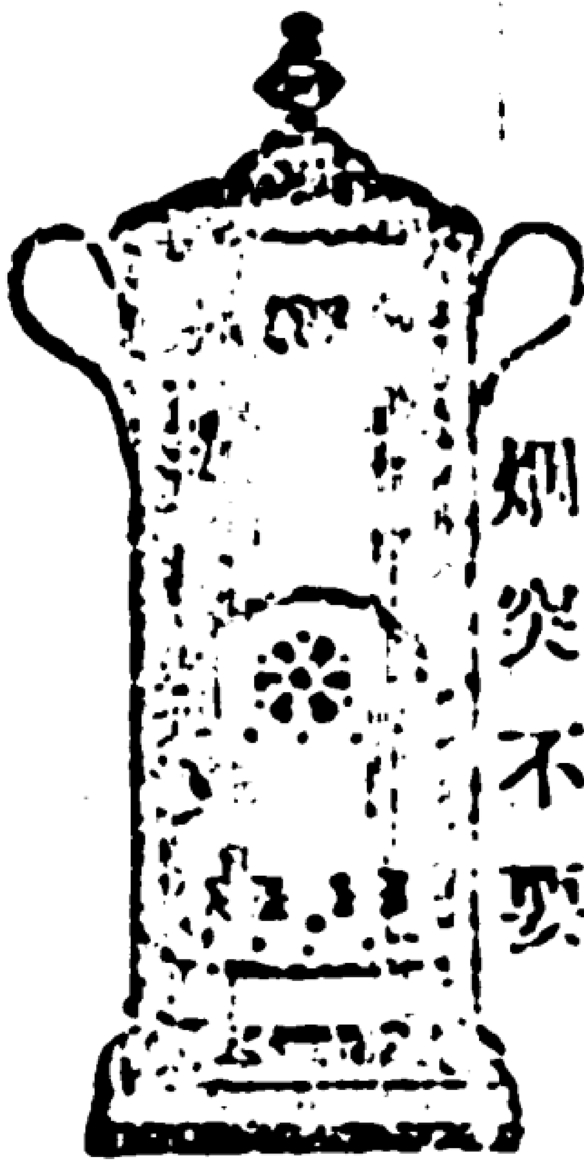
●水原漸君 ●佐々木政吉君 濱田[illegible]君 ●朝倉文三君 ●朝山[illegible]君 秋田[illegible]君 ●佐藤[illegible]君 佐藤[illegible]君 ●佐伯理一郎君 ●楠[illegible]君 ●櫻井[illegible]君 ●北村[illegible]君 ●北川乙次郎君 ●木下正中君 北島[illegible]君 ●北里柴三郎君 ●三浦[illegible]君 三[illegible]之助君 ●宮本仲君 ●[illegible]君 ●三島通良君 ●三宅秀君 ●三輪信太郎君 水野[illegible]君 土方久元君 島村俊一君 ●弘田長君 ●須田[illegible]君 ●ミス、ツルー君 ●前川[illegible]君 ●波多野秀三君 ●矢[illegible]君 和田[illegible]君

●空氣の乾燥を適度に調整し
●炭酸瓦斯の發生を防止せる衛生上有益の防寒用具也
●諸醫學者の賞用を受居るは優等の證

日本宅用 木炭焚

暖爐

烟突不要



此器は少量の炭火を以て室内全體を平均に快く温暖にして温度の上下自在に[illegible]燃焼より起る炭酸瓦斯の發生を[illegible]衛生上有益[illegible]形状優美堅固[illegible]

(有益の證)

●宮城縣病院 赤十字社病院 東京美術學校 [illegible]御試験[illegible]御賞用[illegible]

學士以下諸醫學者の御賞用を受け永く[illegible]御試用後[illegible]

本器の効力の信用は一回試験の後二回三回以上多きは五六個も[illegible]

城縣[illegible]

（名製）

正價壹圓五十錢
荷造費七十五錢

東京市[illegible]町[illegible]番地

山本商店

◎ 乗車用 椅子用

懐爐

[illegible]

謹賀新年

舊臘青森縣より左に移轉致候

千葉縣佐原町
佐原内科病院長

竹中成憲

竹中成憲先生著書六種(郵税共)

◎日本小内科學 貳圓拾六錢

◎肺病豫防養生法 四拾四錢

本書ハ三錢郵券拾五枚ヲ投ゼラレヨ贈呈ス

◎簡易産婆學 四拾四錢

本書ハ三錢郵券拾五枚ヲ投ゼラレヨ贈呈ス

◎赤痢病學 壹圓八錢

◎新藥効用區別 貳拾七錢

◎ペスト必携 貳拾七錢

東京本郷春木町
二丁目廿一番地

半田屋

●女子學術講習會廣告

本會に於て普く一般女子に必要なる新智識を得せしむる目的を以て明治三十六年一月より左の要項に依り第四回女子學術講習會を開く志望の者は住所、族稱、氏名、生年月、を記したる願書を本會事務所に差出すべし

要項

一學科及講師

兒童心理　東京高等師範學校敎授文學士　松本孝次郎君

女敎員、保姆、母親、其他一般女子に於て兒童を育つるに是非共缺くべからざる心得を學問上よりわかり易く授く

料理法　日本女子大學校講師　赤堀峯吉君　仝　菊子君

日本料理及び簡易なる西洋料理を實地につきてわかり易く授く

一科外講演　華族女學校學監　下田歌子君　醫學博士　三嶋通良君

一講習料　金壹圓五拾錢（結了迄の分）、

一會場　神田區一ツ橋通町東京高等師範學校附屬小學校講堂

一期限　明治三十六年一月十八日（日曜日）より毎日曜日午前第九時より三時間づゝ凡三ヶ月にて結了

一證明狀　出席の度數を案して授與す

一申込期限　明治三十六年一月十二日限り

入會願書式　（小紙半紙）

入會願

現住所、族稱、職業

氏名

貴會女子學術講習會へ入會致度此段相願候也

明治三十六年　月　日

右　氏名

東京府敎育會御中

明治三十五年十二月

神田一ツ橋通町二十一番地　東京府敎育會

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 會員支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く 會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市旭町一番町十番戸 河上フサ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す、役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會は私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ヲ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

開設の趣旨及目的

第一條 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必や衛生と相俟ちて而る後ら始めて全きを得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隨して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達に互に努め力めんとするに在る而已●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條 本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし●第五條 會員種類會員を分ちて特別、通常、終身の三種とす 終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三十錢以上通常會員は一ケ月金拾五錢を納むるを●第六條 男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし●第七條 本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。(死亡等は知戚知人より通知せらるへし)●第九條 本支會に左の役員を置く 支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條 役員は任期滿一ケ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條 本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし)●第十二條 集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會 八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く必要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるへし●第十三條 毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演説又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會するを得へ(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條 講義演說等は男子の傍聽を禁ず但し賛成員若しくは會員の緣故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絕することあるへし●第十五條 毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條 會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條 本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條 總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條 會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するもの有る時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條 茲に記述したる數條の他その必要と認むへき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條 本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の賛成により總會の意見を經るに非ざれば設に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市川見小路二十五番地
茨城支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に隨し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の補益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品を寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●通常會員章
第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢
第二號　正銀製五拾錢、送費六錢



●終身及特別會員章
第一號　壹圓、送費九錢

●入會注意

御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

明治二十六年四月五日第三種郵便物認可
明治卅六年一月二十五日印刷及發行
婦人衛生雜誌第百五拾八號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷